

医学部ウォーカー

1面：ヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム2018
 2面：癌抑制遺伝子TP53の活性化変異が原因で起こる「新たな先天性骨髄不全症」を発見／医学研究科長・医学部長密稱、教授就任の挨拶
 3面：教授就任の挨拶／教育に携わって優れた業績を上げた教員を受賞して／Poster Awardを受賞して
 4面：Young Investigator Awardを受賞して／最優秀演題賞を受賞して／ドイツ医学会の名譽会員に推戴されて
 5面：日本胸部外科学会研究助成を受賞して／若狭 貴一郎 氏を受賞して／優秀演題賞
 6面：展示Gold Medal受賞報告／優秀演題賞を受賞して／櫻井記念医学研究科
 7面：弘前大学医学部医学科スクーリングを開催して／秋季学位記授与式
 8面：解剖学実習／実験動物学実習
 9面：医学研究科内会
 10面：心と体の緩和ケア／開催報告
 11面：学生より
 12面：青森あすまし温泉紀行
 13面：学生より
 14面：留学だより
 15面：留学だより
 16面：留学だより
 17面：留学だより
 18面：留学だより
 19面：留学だより
 20面：留学だより
 21面：留学だより
 22面：留学だより
 23面：留学だより
 24面：留学だより
 25面：留学だより
 26面：留学だより
 27面：留学だより
 28面：留学だより
 29面：留学だより
 30面：留学だより

題字 前弘前大学長 遠藤正彦氏筆

弘前大学COI

ヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム2018

弘前大学 COI研究推進機構 教授・COI副拠点長(戦略統括) 村下公一

弘前大学と青森県、弘前市は、科学技術振興機構(JST)共催のもと、平成三十年九月十四日(金)、「弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム2018」を一堂(東京都千代田区)で開催しました。

まずは本フォーラムにご協力いただいた学内外の先生方や参画機関、そしてスタッフとして運営にご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。

フォーラムでは、市民を巻き込んだ真のオープンイノベーションの追求、SDGsへの貢献を目的とした弘前大学COIの取組について、最先端の研究成果を紹介したほか、社会実装の進捗状況など、産学官民各界の第一線で活躍している関係者が参集し、熱心な議論が展開され、またご来賓より激励のお言葉を頂戴しました。

特別講演では三人の演者が登壇し、クラシエホールディングス(株)代表取締役社長執行役員 岩倉昌弘氏が「冷え改善でQOLを向上する」、サントリー食品インターナショナル(株)常務執行役員 西本正三氏が「水と健康」を科学する、料理研究家の浜内千波先生が「次世代への健康意識の伝え方を考える」と題して、それぞれ熱のこもった講演をいただきました。

また発表の中間には、ご来賓でJST未来社会創造事業 事業統括、トヨタ自動車(株)元副会長、COI STREAMガバニング委員会委員の渡辺捷昭氏よりご挨拶ならびにご助言を頂戴しました。

閉会前には(株)三菱総合研究所理事長およびプラチナ構想ネットワーク会長で、東京大学第二十八代総長を務められた小宮山宏先生から、激励のお言葉を頂戴しました。

閉会にあたり、弘前大学副学長(COI担当) 医学研究科長の若林孝一先生が挨拶し、大盛況のうちに幕を閉じました。

弘前大学COIは今後も、参画機関、ご関係の皆様、学内外の先生方のご指導・ご協力を賜りながら、本事業のさらなる推進、真の健康オープンイノベーションの実現、SDGsへの貢献を目指し、躍進してまいります。引き続きご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



佐藤学長



JST 白木澤理事



松尾文部科学省 科学技術・学術政策局長



中路先生



クラシエ 岩倉氏



サントリー 西本氏



浜内氏



渡辺氏



小宮山先生

弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム2018
Healthy Aging Innovation Forum (TOKYO)
 "Society5.0時代の健康イノベーションPJ最前線"
 9/14(土) 13:00-17:00
 会場：クラシエホール(弘前大学)



会場の様子



参画機関ポスターセッションの様子

癌抑制遺伝子TP53の活性化変異が原因で起る「新たな先天性骨髄不全症」を発見

小児科学講座 講師 伊藤悦朗 教授 藤悦朗

今回我々は、京都大学医学部腫瘍生物学講座の吉田健一助教、小川誠司教授らとの共同研究により、新たな先天性骨髄不全症を発見しました。

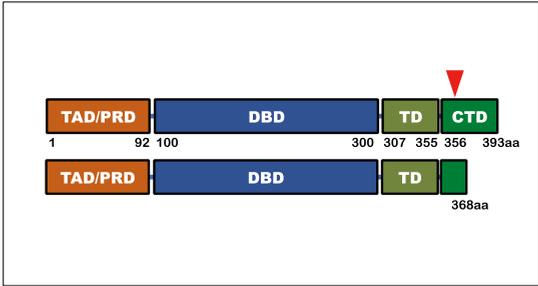


図1. 正常TP53遺伝子産物p53因子(上)と変異p53因子(下)の比較

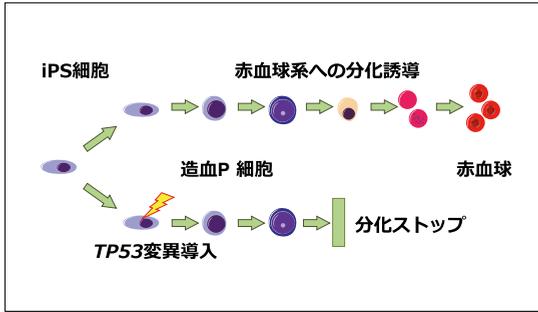


図3. ヒトiPS細胞疾患モデル

先天性骨髄不全症は、造血幹細胞が先天的に障害される疾患の総称です。その中で赤血球の産生だけが障害されるダイアモンド・ブラックファン貧血(DBA)は最も頻度の高い先天性造血不全症です。我々は十年ほどかけて本症の原因遺伝子の検索を進めてきました。今回は、臨床的にDBAと診断された患者さんの中に、癌抑制遺伝子TP53の活性化変異が原因で起る先天性骨髄不全症を発見しました。本研究結果は、米国学術雑誌「The American Journal of Human Genetics」(103(3):440-447 (2018))に掲載されました。

RP515Aを発見してまだ四〇%ほどの症例において原因遺伝子が分かっています。一方、DBAの病態にはTP53が重要な役割を果たしている可能性が以前から指摘されてきました。しかし、TP53がどのような役割を果たしているのか、詳細なところは明らかになっておらず仮説として論じられて来ました。

【研究成果の概要】

今回我々が調べた症例の中に、典型的なDBAとは少し異なる二名の患者さんが含まれていました。二人の患者さんは、貧血に加え、低ガンマグロブリン血症、小頭症、高度の成長障害などの特徴がみられました。本研究では、両症例でTP53に変異があることを

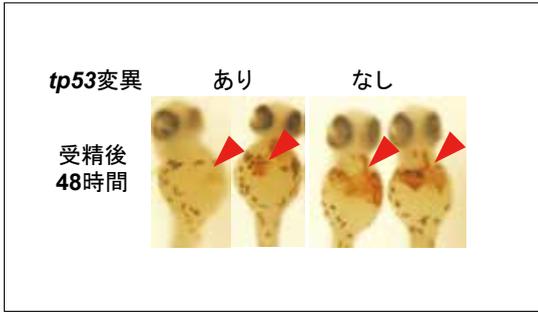


図2. ゼブラフィッシュ・疾患モデル

みつけ、DBAに類似した新しい先天性骨髄不全症を引き起こされることを明らかにしました。みつけた変異は、TP53で初めて見つかった活性化変異で(図1)、これまで癌などで報告されてきたものとは性質の異なるものでした。本研究ではゼブラフィッシュ・

長崎大学 医学部 研究科 長崎 医学部 研究科 長崎

医学部入試の現状と課題

医学研究科長 若林孝一



最近、日本のいくつかの医学部で入試において公平性を欠く事案のあったことが問題になっていました。弘前大学医学部では過去にも現在も入試制度に大きな問題があるわけではありませんが、少子化が進む中、優秀な学生の確保は大学にとって大きな命題となっています。今回は医学部入試制度について考えてみたいと思います。

現在、医学部の入学定員(一年次)は一二名であり、二年次から全国最大規模の学士編入学生二〇名が加わりますので計一三二名となります。入試形態としては学士編入に加え、AO入試と一般入試があり、AO入試(定員四七名)は東北六県と北海道の高校の卒業生(現役または一

浪)を対象としており、卒業後は本学医学部またはその関連施設で一年以上勤務することを確約できる者として入試します。AO入試四七名のうち三〇名は青森県内出身者を選抜しています。一般入試(定員六五名)のうち一五名は青森県定着枠であり、全国どの出身であっても受験できますが、AO入試と同様に卒業後は本学医学部またはその関連施設で一年以上勤務することを確約できる者として入試します。さらに、学士編入学生二〇名のうち最大五名は県内枠(青森県内の高校または大学の卒業生)として入試します。

AO入試は平成二一年度入試から導入しましたので今年度一一年目となります。AO入試による入学者はすべて地域定着枠ですが、地域定着枠の使命は地域医療だけではなく、裾野のある地域医療と頂に相当する研究や先端医療を同じ人間が経験し成長してゆく。それが弘前大学医学部が目指す循環型医師育成です。さらに言えば、地域医療にも国際化を含めた「外に開かれた眼」が必要であると思えます。初期研修の終了後も専門医の取得と大学院進学(学位)の両方をしっかりとやるのが求められています。つまり、地域定着枠の理念は高度医療人の育成です。

現在、学部の入試だけでもAO、一般、学士編入があり、その評価は面接や模擬講義、ワークショップ、ケーススタディなど多面的な評価が行われています。医学教育センターのIR部門長である佐々木教授の分析では医学部卒業時の成績と最もよく相関するのは一年次の成績であることが明らかになりました。このような解析を学部入試においても行い、どのような評価法が有効かつ合理的な方法であるかの検証が必要です。

学士編入は平成一五年度入学が第一期生ですが、導入から一五年以上が経過しました。この制度は他学部を卒業あるいは社会人を経験した学生が医学部に入学することで多様性が生まれることを期待して導入されたと思われています。ただ、全国的に学士編入

教授就任に際してのご挨拶

輸血・再生医学講座 教授 玉井佳子



平成三十年十月一日付で輸血・再生医学講座教授を拝命いたしました。皆様のご支援に心から御礼申し上げます。就任にあたり自己紹介を兼ねてご挨拶申し上げます。

父方の先祖は二戸(南部藩)、母は稲垣(津軽藩)出身であり、八甲田を境に青森県を二分する南部と津軽の両親のもと、三人姉弟の次女として八戸市で生まれ育ちました。軟式テニスに明け暮れた中学・高校時代を経て、弘前大学医学部に入学後は心を入れ替えて真面目に学業に励み、臨床で、中学・高校の知り合いと大学の知り合いが思い描く私の印象は大きく異なるかもしれません。大好き

な友人に誘ってもらって途中入部した茶道部では、飛内宗邦先生「弘前のお母さん」の温かさに部員一同で甘えっぱなしでした(先生、ご無沙汰ばかりで申し訳ありません)。親戚縁者は誰も医療に携わっていません。多岐の同門(月水会)の先生方からは、医療に関するご指導のみならず、温かい励ましのお言葉や叱咤激励も頂戴いたしました。第一内科では先輩も後輩も、実に沢山の女性医師が活躍しており、血液内科では主に河村節子先生に、輸血医療では木村あさの先生に導いていただいております。自分が、先輩たちにその姿勢を十分に示せていることは反省しております。

浅学非才の身ではございますが、初心を忘れることなく医学科と附属病院の発展のために努力してまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【今後の展開】

本研究はTP53の活性化変異が骨髄不全症を引き起こすことを証明しました。今後、先天性骨髄不全症の新規治療法や癌の予防法の開発に結びつく可能性が期待されます。

本研究はTP53の活性化変異が骨髄不全症を引き起こすことを証明しました。今後、先天性骨髄不全症の新規治療法や癌の予防法の開発に結びつく可能性が期待されます。

本研究はTP53の活性化変異が骨髄不全症を引き起こすことを証明しました。今後、先天性骨髄不全症の新規治療法や癌の予防法の開発に結びつく可能性が期待されます。

本研究はTP53の活性化変異が骨髄不全症を引き起こすことを証明しました。今後、先天性骨髄不全症の新規治療法や癌の予防法の開発に結びつく可能性が期待されます。

教授就任に際してのご挨拶

岐阜大学大学院医学研究科泌尿器科学分
野・腎移植外科を担当する
教授 古家 琢也

二〇一八年八月より、岐阜大学大学院医学研究科病態制御学講座 泌尿器科学分野・腎移植外科を担当する

私の先輩・後輩に囲まれた、とても幸せな学生生活となりました。お世話になった先生方に御礼申し上げますとともに、ご挨拶の機会をいただきましたこと

私が弘前大学に入学したのは昭和六十三年で、翌年昭和天皇が崩御され平成が始まった年でもあります。岩木山嶽温泉での新入生歓迎会の際に、バレー部に入るといった同級生がたまたま

近くについて、じゃあ自分もやってみようかという感じで始めたバレーボールでしたが、おかげでとても充実した六年間を過ごすことができました。その間北奥羽二部で全学のバレーボール部と公式試合をすることができ、また北医体優勝三

回、東医体ベスト8を二回経験し、全医体にも参加することができました。部の先輩・後輩と朝まで酒を酌み交わしながら、バレーの話を熱く語っていたことが

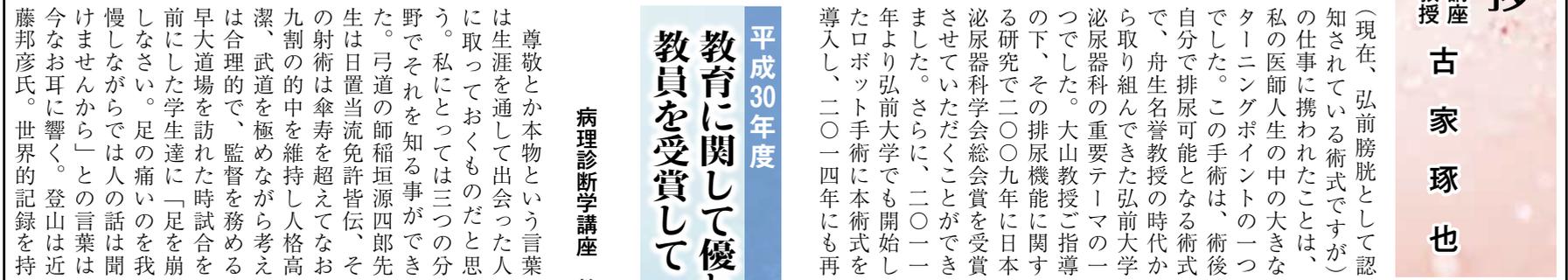
一番の思い出です。素晴らしい先輩・後輩に囲まれた、とても幸せな学生生活でした。卒業後の進路については色々と悩みましたが、泌尿器科学教室にお世話になることとしました。大学院は、衛生学（現、社会学講座）にお世話になりました。菅原和夫教授、中路重之助教授のご指導の下、好中球の活性化産生能に関する研究を行い、学位を取得させていただきました。この間、別府・大分マラソン大会や、日大相撲部、講道館などに足を運び、検体を採取していたことが懐かしく思い出されます。今思うと、この経験のおかげで血管確保の技術が向上したように思います（相撲部の選手たちは血管が見えないので！）。

泌尿器科に戻ってからは、主に筋層浸潤膀胱癌や前立腺癌などの、骨盤臓器に関する仕事をさせていただきました。特に、鈴木名誉教授が考案した新膀胱

（現在、弘前膀胱として認知されている術式ですが）の事に携われたことは、私の医師人生の中の大きなターニングポイントの一つでした。この手術は、術後自分で排尿可能となる術式で、舟生名誉教授の時代から取り組んできた弘前大学泌尿器科の重要テーマの一つでした。大山教授ご指導の下、その排尿機能に関する研究で二〇〇九年に日本泌尿器科学会総会賞を受賞させていただきました。さらに、二〇一一年より弘前大学でも開始したロボット手術に本術式を導入し、二〇一四年にも再

度日本泌尿器科学会総会賞を受賞することができました。二〇一八年には、大山教授のご尽力によりロボットによる膀胱全摘除術が保険収載となり、手術を行う施設も徐々に増加してきました。しかし、多くの施設でロボットによる新膀胱造設術を行えるようにするためには、越えるべきハードルがいくつもあります。術式の標準化に向けて、岐阜大学でもこの仕事を継続していきたいと考えています。

末筆となりましたが、弘前大学の益々のご発展を心よりお祈り申し上げますとともに、弘前大学の名に恥じぬよう、岐阜の地で誠心誠意尽力していく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。



この度は、教育に関して優れた業績を上げた教員として表彰をいただき大変嬉しく、光栄に思っております。まずは、私の講義に対し、関心を持って聞いてくださった学生さん方に感謝したいと思います。私の担当は、主に腎炎・ネフローゼです。国家試験への出題も多く、皆さんが必ず一度学習する領域であります。これらの病気は、それぞれ非常にユニークで、実際の診断治療においては、道元も言います、師の正邪によりて悟りの偽と真とあり、と。本物は必ず謙虚である。本物はその道以外の世俗、徒党に興味を示さない。スポーツでも学問でも、最初には純粋な動機から発した集団は必ず幹部の地位権力の保全のための集団に化してくるものである。いずれの道も未だ一合目に達しないが、おかげでその本質の面白さを識ることができた。病理学では今までは、がん細胞の遺伝子異常、培養細胞での細胞周期の制御、DNA傷害を研究し、臨床面では病理診断の臨床医療への貢献に努めて

では日々ワクワクしながら生検前の予想と、実際の結果を照合したり、薬への反応などを見ていきますが、概念の理解が不十分であると、ただただ苦痛な暗記の連続になってしまいます。私は、本を読めば三十分で済むところを九十分かけて

授業する意味って何だろう。と率直に思っています。ただ、臨床実習の学生さん方と話していると、選択式試験の弊害なのかキーワードの海でおぼれているな、という印象を持ちますので、できるだけ、ストーリーを捉えてもらえるようにしています。また、「腎臓病は難しいな。」ではなく、「それぞれこんなに違うんだな、自分も診断できるかも。」と思ってもらえるように努めています。腎臓は、日常の保険診療で電子顕微鏡検査を施行できる数少ない臓器の一つであります。私は、電顕像を十分理解できるようになるのに何年もかかりました。その後、腎臓病に対して飛躍的に理解が深くなったという思いがあり、電顕の世界もできるだけご紹介するようにしています。それでも、知識のオンパレードで九十分間は大変ではないかと思えますので、少しばかりのすきまに、日常診療で私たちがどのように患者さんと向き合っているのか、ご紹介するようにして

います。実際の臨床では、特別な腎疾患のない、加齢や高血圧、糖尿病などを基礎とした腎機能障害が大変多く、そのような患者さんにも、いかに目をそらさず、適正な危機感を持つてもらい、絶望ではなく希望をもって前向きに治療に向き合ってもらえるようにサポートしていくか、そういうお話をお伝えしています。未来ある若い皆さんが、私の話を九十分聞いてくださることは、とても大きなチャンスであると思っています。ひとりでも多くの患者さんによりよい腎臓病診療が届くように、そして、全国に羽ばたいていく皆さんも含め一人でも多くの方に腎臓内科を目指してもらえように、今後とも一層頑張っていきたいと思

最後に、この賞にご推薦いただきましたことに、この場を借りて改めて御礼申し上げます。また、教授をはじめ当科の皆様、特に腎臓グループの皆様の支えと励ましに心から感謝いたします。

今後は Ability of cytokines production by uterine NK cell stimulated by (次ページへ続く)

平成30年度 教育に関して優れた業績を上げた教員を受賞して

病理診断学講座 教授 黒瀬 顕

尊敬とか本物という言葉は生涯を通して出会った人に取り憑くものだと思います。私にとっては三つの分野でそれを知る事ができました。弓道の師稲垣源四郎先生は日置当流免許皆伝、その射術は傘寿を超えてなお九割の的中を維持し人格高潔、武道を極めながら考えは合理的で、監督を務める早大場を訪れた時試合を前にした学生達に「足を崩しなさい。足の痛いのを我慢しながらは人の話を聞けませんから」との言葉は今なお耳に響く。登山は近藤邦彦氏。世界的記録を持

ちながらメディア嫌いで一般には無名、身体の一部を失ってまで記録を求めたものではなく「登山は遊び」と徹底した哲学を持つ。病理の分野は複数居るがその一人は平野朝雄先生である。学問の卓越は言うに及ばず、警咳に接した人は悉くその優しさに心底惹き込まれてしまう。本物は山の頂上に至る道を示してくれ

来たが、「細胞増殖とその異常」「脳腫瘍の臨床病理」「病理診断学総論」と、自分が紆余曲折を経ながらも取り組んで来たテーマを学生教育で担当できるのは有難い。何によらず教育とは井の中の蛙に広い世界の存在を教えることである。何か少しでも田舎（地理的田舎をいうのではない）の学生に大海を知りそこに羽ばたく役にでも立てばと思うのである。

American-Sino Joint Meeting of Reproductive Immunology Poster Awardを受賞して

女性の健康推進医学講座 助手 菅 麻 絢子

講演会です。上海での開催ということもあり、中国からの参加者が多い印象でしたが、そのほかアメリカ以外にも日本、ヨーロッパ、アフリカ、インドなど、世界各国から様々な演題が発表されました。

国際シンポジウム

Young Investigator Awardを受賞して

附属病院 消化器内科、血液内科、膠原病内科

医員 新井 徹

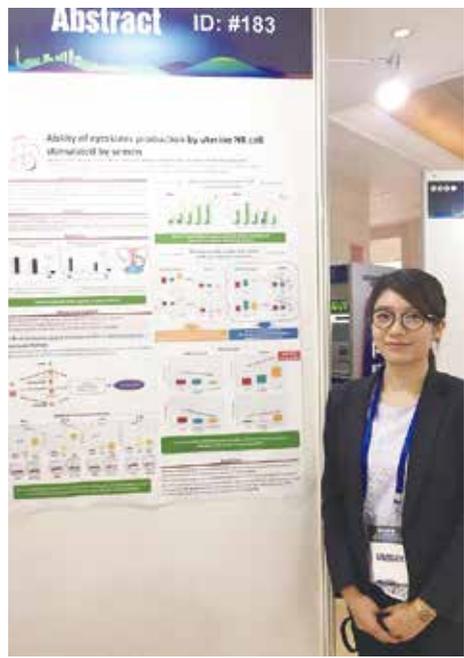
(前ページより)
semenという題でポスター発表を行いました。今までも不育症患者におけるカップル特異的な免疫異常の検査法(患者子宮内膜NK細胞刺激物質としてパートナー精液を使用する方法)の可能性について研究し報告してまいりましたが、今回はさらに踏み込み、実際の不育症患者カップルの検体を使用し対照群とのサイトカイン産生の比較を行いました。当科では不育症検査の際に一般的なスクリーニングに加えNK細胞活性や子宮内膜のCD56dim/CD16+細胞の割合も測定しておりますが、これらの検査でも異常を指摘されなかった不育症患者の群では従来の試薬による細胞刺激とは異なり、対照群よりも抗炎症性サイトカインであるIL-4やIL-10の産生が少なくなることがわかりました。簡単に申し上げますと、今までリスク因子不明不育症とされてきた症例の中には、カップル間の免疫学的相性により生じる隠れた免疫異常があるかもしれない、さらにそれにより流産が惹起されている可能性がある、ということなのです。

二〇一八年六月二十九日(七月一日に大分県大分市で開催された第二十四回日本ヘリコバクター学会学術集会)と同開催された、第十五回韓日合同H. pylori ジョイント・シンポジウムでYoung Investigator Awardを受賞したので報告させていただきます。
日本ヘリコバクター学会はその前身である日本消化器H. pylori研究会の時代から日本のH. pylori研究・治療をリードしてきた学会で、学術集会には内科・外科を問わずに国内外の研究者が集まります。
Young Investigator Awardは、日本と韓国で一年ごとに交互に開催されている日韓ジョイント・シン

ポジウムで若手研究者から選ばれる賞であり、このような名誉ある賞を受賞できたことは、大変光栄に存じます。
受賞した演題は、「Validity of E-plate and LZ test to check up patients with H. pylori infection in mass survey」です。
E-plateもLZ testも血清中のH. pyloriに対するIgG抗体を検出する方法であり、E-plateはEIA法、LZ testはラテックス凝集法で検出を行います。LZ testの方が簡便かつ迅速であり、現在は広く利用されています。

今回の発表は、岩木健康増進プロジェクトの集団検診で集めた検体を二つの方

た。中でも有名な川沿いの夜景は素晴らしかったです。表彰が行われたGala Dinnerは船上で開催され、川上の涼しい風が吹く中夜景を満喫することができました。お金も労力も段違いに必要な国際学会参加ですが、味わうことができる特別感に格別でした。準備中は英語が苦手なため大層苦



は下町と都会の魅力が組み合わさった素敵な町です。今後の症例数を増やし、子宮内膜だけでなくより簡便に採取できる末梢血NK細胞での検討も行っていきたいと考えています。今回の開催地である上海は下町と都会の魅力が組み合わさった素敵な町です。

法を使って検査し、検査結果の一致率と診断精度を比較検討する研究に関するものでした。感染のカットオフ値を10 U/mLとした場合は、いずれの検査も高い一致率を示しますが、測定下限の30 U/mLから99 U/mLに関しては感染・非感染が混在することが知られています。今回の研究では、少なくとも一つの検査で30.99 U/mLの中間値を示した検体を、便中H. pylori抗原測定法を用いて追加で感染診断を行いました。30.99 U/mLの中間値をとった群で、便中抗原検査での陽性率に差はありませんでしたが、E-plateで30 U/mL未満かつLZ testで30.99 U/mLを示した六十九症例では全例で便中抗原

検査陰性となりました。LZ testは簡便な検査ではありませんが、中間値を示した場合には偽陽性率が高く、信頼性はE-plateの方が高いという結果となりました。
本研究は、岩木健康増進プロジェクトの一環として行われた大規模研究です。この研究結果は、岩木地区のみならず青森県のH. pylori感染診断、ひいては胃癌予防に大きな意義を有していると考えられます。

最後に、ご指導いただいた下山克先生、福田眞作教授をはじめとした消化器血液内科学講座の先生方、中路重之特任教授をはじめとした社会医学講座の皆様にも御礼申し上げます。

最優秀演題賞を受賞して

附属病院 耳鼻咽喉科 医員 三國谷 由貴

第66回日本耳鼻咽喉科学会東北地方部会連合学術講演会

二〇一八年七月二十一日に仙台市で開催された第六十六回日本耳鼻咽喉科学会東北地方部会連合学術講演会において、『嗅覚と認知機能：岩木プロジェクトの結果から』というテーマで発表し、最優秀演題賞を獲得することができました。ご報告いたします。
アルツハイマー型認知症やパーキンソン病などの神経変性疾患では発病前から嗅覚障害が認められるということが注目される。嗅覚障害報告がありますが、嗅覚障害を自覚している人は少ないといわれています。そこで、非侵襲的な検査である嗅覚同定能検査で認知症などをスクリーニングする方法を検討するために、我々

耳鼻咽喉科学講座では岩木健康増進プロジェクト健診において、においを嗅いで何のにおいかを判定する嗅覚同定能検査という検査を二〇一六年から行っています。検査キットを用いて参加者の皆さんに様々なにおいを嗅いでもらい正解数を調べ、同時にプロジェクトで実施されているMind Mental State Examination(MMSE)の結果との関連を解析し、発表しました。これからの研究を継続していきたいという内容で発表しましたところ、その私の発表が表彰されました。受賞は講演会の後に開催された懇親会場で発表されたのですが、懇親会を欠席した私に後輩の野村先生がメールで教えてくれました。他にも耳鼻咽喉科に関

ドイツ脈管学会の名誉会員に推戴されて

胸部心臓血管外科学講座 教授 福田 幾夫

このたび、ドイツ連邦共和国の旧首都であるボンで開催された第三十四回ドイツ脈管学会(Deutschen Gesellschaft für Gefäßchirurgie und Gefäßmedizin)において同学会の名誉会員に推戴されました。
私とドイツとの関わりは、二〇一二年に第七回日独血管外科学会学術集会を主催させていただいたことから始まります。日独血管外科学会は、神戸大学名誉教授の岡田昌義先生、Nuremberg大学のDieter Rathert教授が中心になって、日本とドイツの血管外科医の交流を促進するために一九九八年に設立されました。第一回日独血管外科学会学術集会は、阪神淡路大震災復興途上の神戸市で開催

された。その後日本とドイツで二年ごとに交互に開催されています。私が主催した第七回学術総会では、ドイツから二十名以上の高名な先生方が来日され、そこから交流が始まりました。特にErlangen大学のWerner Lang教授とFeiburg大学のKarlsruhe病院のMarin



図1 講演の様子

れまでの他の報告と同様に、嗅覚同定能検査の点数が低くなるとMMSEの点数も有意に低くなるというものでした。しかし、今回用いた三嗅素では感度、特異度、陽性尤度比の観点からはスクリーニング検査には適さないと考えられました。そこで、最適な嗅素の組み合わせや数を考えるべく、これからの研究を継続していきたいという内容で発表しましたところ、その私の発表が表彰されました。受賞は講演会の後に開催された懇親会場で発表されたのですが、懇親会を欠席した私に後輩の野村先生がメールで教えてくれました。他にも耳鼻咽喉科に関

する詳細で独創性にあふれた研究の発表がたくさんあった中で、自分が賞を獲得できるとは思っていませんでしたので、知らせを聞き大変驚きました。これはご指導ご協力いただきました耳鼻咽喉科学講座の先生方や社会医学講座の先生方、そして「においはわからなくて苦手なんだよな」と言いながらも嗅覚検査をやり遂げてくださった岩木プロジェクト健診参加者の皆さんのおかげです。この研究を認知症の早期発見に実際に使える検査の一部として確立させ、社会の役に立てたいと考えておりますので、引き続き研究を行って参ります。

Stock教授には大変お世話になり、当講座から七名の外科医が研修をさせていただいています。また、私が理事を務めている日本血管外科学会のDistal Bypass Workshopで、複雑な末梢血管へのバイパスの知識と技術を習得した日本全国の若い外科医二十名を、この五年間の間にドイツ各地の血管外科の施設に紹介しており、両国の血管外科の交流に務めてきました。また、日独血管外科学会の本側の窓口も務めております。この間に私はFeiburg大学の客員教授にいただき、ドイツ国内で講演をする機会を何回いただきました。おかげさまで、ドイツ国内でも知己が増え、弘前大学の名前を広めることができました。さらに、Feiburg大学心臓血管外科教授で欧州胸部外科学会雑誌編集委員長を務めておられるFreidhelm Beyersdorf教授からは、同学会の会誌であるInteractive Cardiovascular and Thoracic Surgeryのassistant editorにも、日本人として一人、任命していただきました。このような関係で、ドイツ血管外科学会との交流を深めた事、特に若い血管外科医の育成に務めた事を評価していただいたことであり、大変名誉な事だと思

今回第三十四回の学術集会では、日本血管外科学会を対象に行っているDistal Bypass Workshopとその意義に關して講演をする機会をいただき、ドイツの若い血管外科医の教育をどのようにしていくかを討議してまいりました(図1)。(次ページへ続く)

(前ページより)
学会 中 の Presidential Dinner で、Frankfurt 大学の Thomas Shmitz-Rixen 教授 (ドイツ血管外科学会理事、ドイツ外科学会会長) から推戴状をいただきました (図 2)。本会の国際名誉会員に日本人として推戴されたのは、岡田昌義先生、古森公浩教授 (名古屋大学血管外科、日本血管外科学会理事) に次いで三人目という事で、大変名誉なことと思っております。

私のように、海外留学の経験がないものがこのような国際的な交流を進めることができたのも、弘前大学からの援助があったからであり、心から感謝申し上げます。今後も、外科の領域で海外との交流を深め、弘前大学の国際的な評価を高めるために、残り一年半の任期ではありますが、残りの力を尽くしてまいりたいと思っております。



図 2 Presidential Dinner での表彰式。向かって左、Thomas Shmitz-Rixen 教授、向かって右、Werner Lang 教授

日本胸部外科学会研究助成 (JATS Research Project Award) を受賞して

高度救命救急センター 助教 于 在 強

日本胸部外科学会は心臓大血管、肺臓、食道を含む三大外科領域の外科医が集まる全国学会で、本年は第七十一回学術総会が、東京グランドプリンスホテルで行われました。二〇一八年初めて日本胸部外科学会研究助成 JATS Research Project Award が設立され、私は『大動脈弁石灰化の原因細胞における CD34 陰性幹細胞における高発現する骨吸収調節タンパク質 (Wnt5a) の石灰化抑制機序』をテーマとして応募し、受賞いたしました。とても光栄に存じます。私は中国医科大学を卒業した後二〇〇六年十月に来



大北裕日本胸部外科学会理事長 (神戸大学名誉教授) より表彰状を授与されました。

日し、福田幾夫教授より大動脈弁石灰化メカニズムの解明という研究テーマを渡されました。それ以来、福田教授を含め、当講座の大徳先生、病態薬理学講座の古川先生、脳血管病態学講座の瀬谷先生の指導のもと

第 36 回日本脳腫瘍病理学会 ポスター賞第二席を受賞して

附属病院 病理部 医員 小川 薫

この度、第三十六回日本脳腫瘍病理学会においてポスター発表第二席を受賞いたしました。脳腫瘍病理学会は脳腫瘍の治療と研究に

で研究を続けています。二〇一一年三月に学位を取得し、二〇一二年に医師国家試験もパスして日本の医師免許を取得し、同年六月より医師として日本の医療現場で働き始めました。二〇一七年には外科専門医を取得、今年に至って来日十二年目になりましたが、現在も基礎研究を続けながら、心臓血管外科専門医を目指して励んでいます。

石灰化が起こることに よって、大動脈弁狭窄症や冠動脈狭窄などが進行して患者の命を脅かします。そして心臓血管の手術に入る度に、必ず石灰化した組織に直面するようになりま

す。縫合する際に針が通れないくらい硬い組織を切除せざるをえません。その時だけではないですが、人の大動脈弁や血管などの組織はなぜ石灰化が起こるか、もっと良い治療方法がないかいつも頭の中に飛び込んでいます。現在、我々は大動脈弁から分離培養した CD34 陰性幹細胞に注目



今回の受賞者とともに。

し、大動脈弁石灰化のメカニズムを解明し続けています。この研究を通じて、漢方薬を含めて石灰化の進行を抑制できる化合物を探求しております。もし石灰化のメカニズムが解明できれば、より数多くの患者さんの命を救うことができま

す。これは我々研究グループの原動力になっていきます。いつか将来、石灰化に対する薬物治療法を確立し、患者さんが侵襲の大きい開心術を回避できることを期待しております。これからも、先生方の指導の下で、実験室の環境を整えつつ、より多くの学生や大学院生を誘いながら、研究を続けて行きたいと考えています。

携わっている脳神経外科医、病理医が中心となり、さらに神経内科医、神経放射線科医、脳腫瘍の研究者達が参加し、脳腫瘍の形態

学的研究・組織化学的研究・分子遺伝学的研究、ならびに画像を用いた脳機能解析などにより、脳腫瘍の正確な診断法と治療法を確立することを目的として行われている会です。今回は平成三十年九月二十五日(火)から二十七日(木)までの期間で、京王プラザホテルにて開催され、第十九回国際神経病理学会 (ICN2018) と

第 56 回日本癌治療学会 優秀演題賞を受賞して

産科婦人科学講座 准教授 二一 神 真 行

癌治療学会は、日本最大の癌の臨床家の集まりです。今回私が主任研究者として行った JGOG9025 試験の成果が優秀演題に選出されたことを報告します。

JGOG は婦人科悪性腫瘍研究機構の略称で、婦人科癌の臨床試験を行っているグループです。私は二〇一五年から JGOG の支持・緩和医療委員会委員として活動しております。また JSGPM という婦人科がんの緩和医療を考える会の理事も務めてお

り、その会で緩和医療の全国調査を行ったことが研究の契機でした。また JGOG から依頼をうけて、婦人科治療医の婦人科癌患者の QOL への寄与」と題した論文 (Curr Oncol Rep, 2017) を発表することがさらなるステップとなりました。

今回のタイトルは、"The survey concerning the dead using 遺伝子解析を行って います。今回受賞した内容は、日々の業務の中で、Glioma について、二〇一六年に改訂された WHO 分類に基づき、遺伝子情報から出された統合診断と、従来の病理所見から出される組織診断の比較を行い、また Glioma の一種である Oligo-dendroglioma で診断に必要とされる Id-19q 共欠失について、FISH、MLPA 法



で比較した結果をまとめて報告しました。この内容を評価していただいたことを大変嬉しく思っています。最後に、病理診断学講座の黒瀬顕教授、正確な遺伝子解析を行ってくださった鎌滝章央先生、加藤哲子准教授、多大なご協力・ご助言をいただいた脳神経外科学講座、浅野研一郎先生をはじめとする諸先生方に深く御礼を申し上げます。

cases of gynecological malignancies. (JGOG 9025 Study) です。以下内容を紹介します。調査の最大の目的は、最終化学療法投与日から死亡までの日数 (以下 A 値) が短い症例の特徴を検討し、化学療法を含めた積極的介入を行わな

に検討しました。二十七施設、千六十五例について検討しました。平均年齢五九・一歳、癌の発生部位は卵巣三九%、子宮頸部及び体部がそれぞれ二八%、二四%、その他九%でした。進行期は、I 期一七%、II 期一二%、III 期三七%、IV 期三三%でした。再発六百五十五例、再燃遺残が四百十例でした。BSC を主治医が勧めた症例は八一%で、その生存期間の中央値は一・八か月でした。緩和的化学療法を受けた症例は二百九十二例 (二七・四%) あり、その症例において、A 値は全体で六十九日でした。A 値が十四日、三十日以内の症例は、それぞれ全体の七・九%、二〇・六%でした。A 値が三十日以内の特徴は、子宮頸部扁平上皮癌で初回手術治療を受けていた症例が多かったです。

この結果は全がんにおいて考えなければならぬことと思えます。BSC を勧めた症例のその後の中央値がわずかに一・八ヶ月ということは、BSC を勧める時期が遅い可能性が引き続き抗がん剤をいつまで継続したらよいかという答えはないのかもしれないが、今回のデータもふまえ、患者さんに BSC を含めた選択肢を早めに提示することは重要であると思えます。

なお、私実はこれが日本癌治療学会の二回目の優秀演題賞受賞となりました。前回は寄稿しませんでしたのでタイトルだけのご紹介ですが、"Investigation of the clinicopathological features of the squamous cell carcinoma of the vulva" です。今後さらに研鑽を積みみたいと思えます。

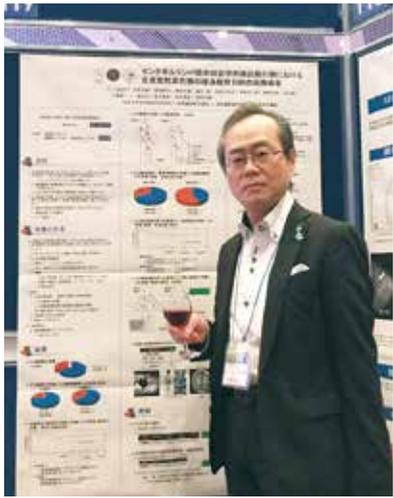
第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会

展示Gold Medal受賞報告

附属病院 放射線診断科 講師 三浦 弘行

我々は二〇一三年から皮膚科の先生方と共に皮膚悪性腫瘍例におけるセンチネルリンパ節 (sentinel lymph node: SLN) の核医学的検査に関する診療を行ってまいりました。そして判定法、診断能、結果等を検討し、それらの研究結果は幸いにして二〇一一年の第七十回日本医学放射線学会総会Cypos Gold Medal、一〇一四年の第五十回日本医学放射線学会秋季臨床大会展示Silver Medal受賞、などとして評価を頂きました。

今回、SLNの核医学的検査が行われた皮膚悪性黒色腫瘍例で、全身CT、頭部MRI、F-18 FDG PET/CTといった経過観察の画像検査が行われた九十七例を、放射線診断学の報告ではめったに見かけないKaplan-Meier法などを用いて解析しました。そしてSLN転移の有無、SLN転移陽性の場合には廓清時の転移の有無で、再発や転移の頻度に有意差がある、SLN転移陰性の場合、血行性と思われる転移が多く、廓清で転移陽性例は全例リンパ節再発であるもの、次々と遠隔転移も出現する例がある、再発や転移の部位、画像診断上の限界、等々の結果を得ました。



今回の受賞は金子高英先生、花田勝美前教授や澤村大輔教授をはじめとする皮膚科学講座の先生方、放射線診断学及び放射線腫瘍学講座の皆様方の多大なご協力、ご理解があつてのもの

と深謝申し上げます。また支えてくれた家族にも感謝です。ありがとうございます。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

第139回日本医学放射線学会北日本地方会

優秀演題賞を受賞して

附属病院 放射線診断科 医員 藤田 環

平成三十年十月二十七日に宮城県仙台市で開催された第百三十九回日本医学放射線学会北日本地方会において、優秀演題賞を受賞いたしました。受賞報告と発表内容の紹介をさせていただきます。

演題名は「CTリンパノグラフィを用いた乳腺センチネルリンパ節とリンパ節の解剖学的分類」です。センチネルリンパ節 (SLN) は「最初に転移するリンパ節」を指しますが、腫瘍に最も近いリンパ節とは限りません。乳癌においてSLN転移がない場合、その先にも転移がないとみなすため腋窩リンパ節廓清は不要です。一方、転移がある場合はその先にも転移の可能性があるので、腋窩廓清が必要とすることがあります。SLN転移の有無で腋窩廓清の適応が変わるため、現在の乳癌手術でSLN生検は標準的手法です。このため、SLN・リンパ管の位置や個数を術前に把握することが重要です。SLN同定に色素法や核医学法が一般的に施行されていますが、今回の研究で用いた「CT lymphography (CT-LG)」も以前から行われている確立した手法です。手術時と同様の姿勢で

患側の乳頭下に少量の造影剤を注入、その後CTを撮影してSLNを描出します。空間分解能に優れているためリンパ管も描出されます。このため、詳細な形態や局在についても評価可能です。また、CTさえあれば簡便かつ低侵襲に施行可能です。

有用なCT-LGですがこれまでの研究報告は少ないため、SLN・リンパ管の解剖学的分類について今回検討を行いました。研究対象は四百六十四件(全例女性)で、この中で描出が良好であった四百三十四件(九三・五%)で以下①④の分類を行いました①SLN・リンパ管が各々単数か多数か、これらの組み合わせによる四分類、②リンパ管分岐の有無とその局在(乳房側か腋窩側か)について①を細分類、③乳腺のリンパ流方向の分類、④肋骨をランドマークとした腋窩リンパ節の局在分類。この結果、SLN・リンパ管の数、解剖学的形

櫻井記念医学研究賞授賞式

医学研究科長 若林 孝一

櫻井記念医学研究賞は株式会社丸大サクラ中薬局(代表取締役社長：櫻井清氏)からのご寄附を原資として設立された研究助成である。平成三十年一月の研究推進委員会において募集要項を定め、特別賞は一件、奨励賞は三件、研究奨励賞は三件、研究奨励賞は一名の応募があった。研究推進委員会における選考の結果、特別賞の受賞者として脳血管病態学講座の松宮朋穂助教(研究課題：抗ウィルス自然免疫応答における脂肪酸代謝の意義)を、若手奨励賞には先進移植再生医学講座の米山徹助教(研究課題：PSA糖鎖構造を標的とした新規前立腺癌診断法の国際多施設臨床試験)を決定した。

平成三十年十月十五日に医学研究科大会議室において第一回櫻井記念医学研究賞授賞式が、櫻井清様、雅子様ご夫妻、佐藤敬学長ご列席のもと行われた。医学研究科長の挨拶の後、今回の受賞者に助成金が贈呈され、選考経過の報告があった。

佐藤学長、櫻井清氏からお祝いのご挨拶があり、受賞者から挨拶と受賞対象となった研究に関する説明がなされた。最後に参加者全員で記念撮影を行い、式は終了した。



中学生と医師との交流プログラム

医学研究科長 若林 孝一

今回の受賞にあたり、本研究をご指導いただきました放射線診断学講座の小野修一准教授、三浦弘行講師、放射線腫瘍学講座の青木昌彦教授、国立青森病院の清野浩子先生、また、消化器外科学講座の袴田健一教授、西村顕正先生、青森新都市病院の西隆先生、放射線診断学講座の皆様には厚く御礼申し上げます。



将来の医療職を目指す弘前市内の中学生を対象とした「医師との交流プログラム」がスタートして今年で五年目となる。この事業は弘前市教育委員会が主催となっており、今年市内の八つの中学校から十九名が参加した。プログラムは全二回で、弘前大学医学部会場とし、平成三十年八月四日には中学生と医学生との交流を、八月八日には中学生と医師との交流を行った。



研究の継続にはアイデアと研究環境と研究費が必要である。この賞が設立されたことを契機に弘前大学医学研究科における国際共同研究が益々発展することを期待したい。

研究の継続にはアイデアと研究環境と研究費が必要である。この賞が設立されたことを契機に弘前大学医学研究科における国際共同研究が益々発展することを期待したい。

がいや喜びが中学生に伝えられた。終了後のアンケートでは全員が医療職への興味や理解を深めることができたこと回答していた。参加した中学生の瞳が輝いている様子が印象的であった。

平成30年度

弘前大学医学部医学科 スクーリングを開催して

入試専門委員長 上野 伸哉
(脳神経生理学講座 教授)

平成三十年度は、従来二回行っていたスクーリングを、内容的に重なる部分が多いため、弘前大学オープンキャンパスに合わせ八月七日のみとしました。今後



も開催は一回の予定です。スクーリングでは四コマの講義(1)医学部長の若林孝一先生から「弘前大学医学部の歩みとこれから」、(2)附属病院長 福田眞作先生より「躍進を続ける弘前大学医学部附属病院」、(3)学務委員長 鬼島宏先生より「弘前大学医学部医学科



医学部では、学力だけではなく多様な評価を取り入れる方針のもと、AO入試、一般入試および、学士編入学といった入試形態の多様化を導入しています。平成二十年度より始まったAO入試も十年を超え、入試形態としてもなじみあるものになりました。またAO入試枠は、入試要件とし

秋季学位記授与式

医学研究科長 若林 孝一

弘前大学秋季学位記授与式(学部および大学院)が、平成三十年九月二十八日に大学会館大集会室で行われ、大学院医学研究科六名を含む四十三名に学位が授与されました。佐藤学長のお祝いの言葉の後、学部卒業生および大学院修了者に学位記が授与されました。

引続き、大学院医学研究科秋季学位記伝達式が行われました。医学研究科では三月に加え秋季にも学位授与者がコンスタントに出ています。これには二つの理由があります。一つは、四年の修業年限内に修了できる学生が減少したこと、平成十九年度から、学位論文はすべて査読制のある雑誌に採択されていることが義務づけられた結果、論文

て北海道、東北六県の受験者を対象とし、卒後の義務年限も定められた、地域定着枠としての募集です。既にその卒業生は医師として青森県を中心に活躍しています。最後に円滑な運営、実施を担った事務の方々、さらに講義担当の教員のみなさまに深謝いたします。

の採択までに時間がかかり、学位論文の採択を待っている四年生が以前よりも増えました。二つ目の理由は、修業年限短縮制度を用いて修了する学生が増えていることです。医学研究科では、優れた研究業績を上げた学生については、三年あるいは三年半で修了することができ、制度を設けています。したがって、春季入学で半年早く修了する学生と秋季入学で一年早く修了する学生は、秋季に学位を授与されることになりました。今回の医学研究科の秋季修了生は六名であり、そのうち一名は修業年限短縮制度を利用して修了された方でした。

今回の学位論文は何れも素晴らしい内容であり、学位授与者の今後の活躍を期待したいと思います。今年度の秋季学位記伝達式には四名が出席し、研究科長から学位記が授与されました。



平成30年度

弘前大学医学部 解剖体慰霊祭

生体構造医科学講座 教授 下田 浩

弘前大学医学部および附属病院において系統解剖、病理解剖、ならびに法医学解剖のためにご遺体を捧げられました三百四十七柱の御霊に対して甲意を捧げるため、平成三十年度弘前大学医学部解剖体慰霊祭が十月二日午後一時三十分より弘前市文化センター一階大ホールで挙行されました。慰霊祭にはご遺族九十六名ならびに本学白菊会会員六十六名の方々にご臨席賜り、また各方面から多くのご来賓をお迎えし、医学科および保健学科の教職員と学生が参列してしめやかに執り行われました。式に先立ち、弘前大学医学部管弦楽団による献体者慰霊のための演奏が行われ、会場全体が厳かな空気に包ま

ました。まず初めに医学の教育と発展のために本学にご献体いただきました御霊に参列者全員による黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。続いて、昨年からの本年の慰霊祭までにご献体されました方々のご芳名が奉読されました。そして、若林孝一医学部長より祭詞が述べられました。引き続き、医学科二年生の相内一郎さんが学生代表として、ご献体いただきました御霊に対する深い感謝とご遺族への御礼の意のこもった弔辞を捧げました。その後、若林医学部長、福田眞作附属病院長、齋藤陽子保健学科長、医学科二年生の加福陽子さん、保健学科四年生の金子周磨さん、林朋子白菊会理事長による代表献花が行われ、福田附属病院長よりご参列いただきました方々へ御礼の言葉が述べられました。最後に、参列者全員が献花を行い、慰霊祭は滞りなく終了いたしました。

慰霊祭終了後、医学部教職員はご遺族ならびに白菊会会員の方々とともに弘前市墓地公園にある弘前大学慰霊施設に参拝し、長期納骨施設に献体者名簿を納めました。その後、黙祷を捧げ、医学部長による代表献花を行いました。その後、埋骨施設にて黙祷と医学部長、白菊会理事長、続いて参列者による献花を行いました。最後に筆者よりご参列頂きました方々に御礼のご挨拶を述べさせていただきます。

挨拶を述べさせていただきます。参拝式は無事終了いたしました。前日までの台風の到来により天候や交通が大変心配されましたが、幸い当日は雨風ともに穏やかに、慰霊施設参拝時には青空が覗いていました。ご参列頂きました方々の帰路における笑顔と明るいお声が温かな陽光の光となつて公園の樹木を照らしているように感じられる午後でした。

平成30年度

実験動物慰霊式

附属動物実験施設長 上野 伸哉
(脳神経生理学講座 教授)

平成三十年度実験動物慰霊式を六月十五日に執り行いました。幸いお天気にも恵まれ、また多くの方に献花いただき感謝いたします。慰霊式の後、東北大学名誉教授 笠井憲雪先生より「動物実験の倫理」(実験にあたって最小限知っておくべきこと)のタイトルにて記念講演を行いました。笠井先生は、日本実験動物学会会長として、また国立大学の実験動物および動物施設の検証委員として活躍されています。弘前大学の平成二十四年度および二十九年度における動物実験施設、動物実験に関する外部検証の際にも検証委員長としてご協力いただきました。また研究面のみならず、「人と動物の関係を考える」「ありがたう実験動物たち(ノンフィクション)生きるチカラ」といった単行本の共著及び監修者として、動物実験の倫理を

一般、児童のためにわかりやすく紹介する活動も精力的に行われています。本記念講演では、医学部三年次学生のため、実験における動物実験倫理面を中心に、ご紹介いただきました。実験倫理教育として、学生にとっても貴重な体験となったと思います。今後、動物実験倫理を合わせた講演会を開催します。多くの教員の方にも参加をお願いします。



一般、児童のためにわかりやすく紹介する活動も精力的に行われています。本記念講演では、医学部三年次学生のため、実験における動物実験倫理面を中心に、ご紹介いただきました。実験倫理教育として、学生にとっても貴重な体験となったと思います。今後、動物実験倫理を合わせた講演会を開催します。多くの教員の方にも参加をお願いします。



「心と体の緩和ケア」開催報告

附属病院 麻酔科・緩和ケア診療室
講師 木村 太



平成三十一年度弘前大学大学院医学研究科公開講座「心と体の緩和ケア」が九月七日十八時から二十時に弘前大学医学部コ



ミュニケーションセンターで行われた。例年、様々なテーマで市民の皆様に分かりやすい内容を目指しており、今回は腫瘍内科学講座の佐藤温教授、神経精神医学講座の古郡規雄准教授、麻酔科の木村太が担当した。金曜の夕方という時間帯であったが、八十七名の受講者が集い、熱心に耳を傾けてくれた。佐藤教授は「緩和ケアって何だあ?」、古郡准教授は「がん診療における精神・心理的問題」、木村は「がん疼痛への対処」というタイトルで、それぞれ違った側面から緩和

ケアに対する理解を深めていただくとう工夫を凝らした。講演後のアンケート結果では、よく理解できた三十九名、ほぼ理解できた二十七名、難しかった三名であり、おそらく木村の新規オピオイドに関する話あたりが分かりづらかったと思われる。受講者からの感想の中には、古郡准教授の睡眠に関するお話が非常に参考になった、佐藤教授の温かいお話に心を打たれた、といった充実した内容を示すものが多かった。

病、甲状腺疾患などが含まれていた。緩和ケアをもう一度という意見も多く、実際の緩和ケアチームの活動状況が分かるような内容での要望もあった。総じて、今回の公開講座は、受講者が興味を持って聴いてくれたため、演者との良いコミュニケーションがとれたと思われる。

佐藤教授、古郡准教授、分かりやすく示唆に富んだ内容の講演をありがとうございます。医学研究科事務部、広報委員会の皆様、しっかりとした準備のおかげさまでした。次回以降も学内公開講座が充実した内容で、市民の皆様のためになることを願っております。

医学展2018を終え

代表：廣兼 正明
副代表：真鍋 光輪
医学部医学科4年

十月十九日(二十一日)に行われました弘前大学文化祭において、今年も医学部は医学展を開催しました。一年生から四年生まで実に多くのスタッフが参加しました。今年の医学展のコンセプトは「わどな弘大医学展」です。「わどな」は青森県の方言で「私とあなた」の意味です。医学展は医学部生だけでは成り立たない、来場者だけでは成り立たない。私たち学生が来場者と関わる企画を行うこ



とで、医学部生が来場者から何かを受け取ったり、来場者が何かを得たりする、そんな場であってほしいという願いが込められています。医学部生が来場者に提供するコンテンツが、医学部の独りよがりではなく、来場者のニーズに合わせたものを提供していきたいという思いも込められています。

各ブースについては、外科・救急・健診・精神・産科・臓器の全六ブースを行いました。今年も、一般市民の方に医療リテラシーをより持つてほしいという思い



は、大きなことを為すには一人では為しえないということとを深く感じました。これからチーム医療に携わるものとして、相手のことをきちんと考える思いやりのある医療者を目指していきたいと思

で様々な新しい取り組みを行いました。救急ブースでは、脳血管症状が起こった際に、病院に到着するまでの時間の重要性や、救助の際の体位変換の方法の大切さを知ってもらいました。精神科ブースでは、最も名が知れている精神科疾患の一つである「うつ病」について、知ってもらうためにうつ病の発見を目的として使用するCES-Dを行いました。健診ブースでは、より自分の健康について知ってもらうために、説明するためのスペースを広く取り、丁寧に来場者に説明を行いました。このように各ブース様々な取り組みを行いました。

来場者のアンケート結果では、「スタッフの対応に満足できましたか?」という項目で、「とてもそう思う」と答えた人の割合が、八五・六%でした。医学展2018を行った成果が見て取れ、我々スタッフも大変喜ばしい結果となりました。

私自身としても、本当にスタッフに恵まれたと思っています。自分の盾になってくれた幹部、「廣兼さんが代表なら」とブースのリーダーを受けてくれたリーダー・サブリーダー、身を削ってシフトを埋めてくれたスタッフ、様々な人たちに感謝しています。彼らがいなかったら医学展は成り立たなかったと思っています。

大きなことを為すには一人では為しえないということとを深く感じました。これからチーム医療に携わるものとして、相手のことをきちんと考える思いやりのある医療者を目指していきたいと思

青森 あすまし 温泉紀行

19

鬼島 宏
(病理生命科学講座・教授)

奥薬研温泉
斗南温泉
小川温泉 寿湯



二十三日迄)は、むつグランドホテル内の施設である。ホテルHPにも掛け流しが明示されており、「美人の湯」に恥じないアルカリ性単純泉で、地元の方々に好評のようです。

小川温泉・寿湯(第七十六湯：むつ市田名部・月曜休・二十一時迄)は、旧田名部町中にある昭和の渋さあふれる温泉浴場です。無色透明ながら、ナトリウム・塩化物泉のためしっかりと体が温まりま

この他、旧・大畑町の中心には、温泉ならずとも昭和の雰囲気あふれる銭湯が数件あります。八戸の銭湯と並んで、昭和の銭湯文化を残している感じで、今後も時代の波に流されずに営業し続けてほしいと願わんばかりです。



斗南温泉(第七十五湯：むつ市田名部下道：初旬・十七時迄)は、廃業旅館の露天風呂を市が管理・無料開放しているという(問合せ先：大畑庁舎産業振興課)。自然に囲まれた中、単純泉のしっとりとした湯に入るのは素晴らしい一言に尽きます。



学生だより

解剖学実習を終えて

解剖学実習を終えて

医学部医学科二年 鈴木 咲楽

まず初めに、ご献体頂きましたご本人様とご家族様に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

実習初日、私は初めてご遺体と対面しました。ご遺体を目にするまでは、生きておられた方のお身体をお借りして実習していくことに少し不安を感じていました。しかし、実習室でご遺体にお会いしたとき、その不安は消え失せ、強い責任を感じている私がそこにいました。恐れ多い気持ちになりました。恐れ多い気持ちになりました。恐れ多い気持ちになりました。

また、私は実習において先生方と実習班メンバーに恵まれました。先生方は私たちの作業の補助だけでなく、一つ質問すると十教えてくださいました。私たちが見ている部分についてしっかりと理解し、知識を増やしながら実習を進めていくことができました。実習班についてはそれぞれが作業を行う中で、何かを発見するとその度に全員で知識を共有し、確認してからの工程を進めていきました。意識の高いメンバーのおかげで毎回実習時間はあつという間に過ぎ、いつも充実した時間を過ごすことができました。

解剖学実習を終え、本当に貴重な経験をさせて頂いたと強く実感し、ご献体頂きました方とそのご家族に

解剖学実習を終えて

医学部医学科二年 加藤 隼人

私は二年生になる前から解剖学実習がとても興味深いものだと思っていました。医学部に合格した者しか立ち入ることができない特別感、実際にご遺体に触れることで体の構造を立体的に自分の目で見て理解できる緊張感、そして将来医師以外のどの職業でもなく、本当に自分が医師になるのだと言う使命感、かなりやりがいがあると感じていました。

実習が始まると、メスを持つ緊張感があつたことを今でも覚えています。手術の様子を見ても実際に手を動かしてみなければどのような厚さでどのような感触でどのくらい力を入れたら良いかわかりませんでした。が、実習を積み重ねるにつれ自然と手つきが慣れ、手さばきもスムーズに行えるようになりました。臓器を持つてみた感じや仕組み、構造について知れば知るほど人体の不思議さに驚くばかりであり、人体が無駄のない精巧な作りをしていてと実感しました。他の科目の授業を受けている時も解剖学実習で行ったことを思い浮かべることが多

く、かなり自分のためになりました。次に、献体して下さった方に感謝を書き留めたいと思います。医学の進歩だけではない、私たちが良い医師となるために、亡くなられた自らの身を捧げて下さったことに感謝しています。また、ご遺族の方々から献体登録を了承して下さったことにも感謝しています。他の科目の授業を受けている時も解剖学実習の大切さを実感するばかりで

解剖学実習に向き合うこと

医学部医学科二年 新田 祥子

「たいへんなことをしてしまった」というのが、実習初日を終えたあとの感想でした。覚悟はできていたつもりでしたが、実際に御遺体を目の当たりにすると、畏れのような感情が大きく湧いてきました。家で湯船に浸かっていても、ご遺体の冷たさがずつと手に残っているような感覚になったことを覚えていきます。しかし、感傷的になるのではなく、多くのことを学ぶことがご遺志に最も報いることだと考え、その後の実習は頭のスイッチを切り替えるようにして臨みました。腕神経叢の神経や血管がどれと同じに見えて思考が停止したり、暗記量の多さに圧倒されることもありましたが、この言葉を一息吐いた瞬間、知識と人格形成」という意味で捉えています。実習前に抱いていた不安感や、実習初日に感じた特別な感覚を大切にしながら、この実習を通じて学んだ知識と倫理観を糧に、今後の大学生活や医師としての人生に活かしていきたいと思えます。

解剖学実習を終えて

医学部医学科二年 三澤 明広

解剖学実習の初日、防腐剤の独特の臭いのする実習室に入ると、そこには各班の実習台の上に白布で包まれた数々のご遺体が静かに置かれていました。入口で深く礼をし、白布に包まれたご遺体の脇を歩きながら、自分の実習台に一步一步近づいた時、不安感と感謝の入り混じった特別な感覚が体中に走りまわりました。自分の実習台に辿り着き、かつは自分と変わりのない人生を生きてきた一人のご遺体が白布に包まれていたのを目にしたとき、「自分が解剖なんてして良いのだろうか。この方のご遺志にお応えできるのだろうか。」とその特別な感覚がさらに高まりました。この感覚を早く取り除きたいと思ふ一方、亡くなった自分の祖母のことをふと思ひ出したり、もし自分が死

す。献体にご協力してくださったみなさんの思いに恥じないよう、日々努力して立派な医師になれるよう勉学に精進したいと思います。解剖学実習を通して、医師になるという責任感と勉強に努めなければならぬという使命感を持つようになりまし。この三ヶ月間の解剖学実習は忘れることのない人生の大きなイベントとなりました。解剖学実習で学んだことを活かして、今後も良医となれるよう頑張りたいと思います。改めて実習に関わって下さった全ての方に感謝を申し上げます。ありがとうございます。

後援会のご案内

会長 石戸谷 忻一

弘前大学後援会では、学生の学業、課外活動への助成、学生の進路指導に必要な助成等学生生活の多岐にわたる分野の助成を行っております。つきましては、何卒本会の趣旨にご賛同頂きまして、各位の格別のご高配、ご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

なお、入会方法等の詳細については、弘前大学総務部総務広報課 (Tel : 0172-39-3012、E-mail : jm3012@hirosaki-u.ac.jp) までご連絡いただくか、弘前大学後援会ホームページ (<http://www.hirosaki-u.ac.jp/kouen/index.html>) をご覧ください。

が、そのたびに自分を叱咤してやってこられたのは、誰でもないご遺体のお陰でした。また、解剖学は非常に知的な好奇心が刺激される学問でもありました。人体は緻密に設計された機械のようです。予習した複雑な構造が現れたときは、眼を輝かせ実習書と照らし合わせました。人体は美しいです。その素晴らしいことを知ることが許されている我々医学生は、本当に貴重で光栄な機会を与えて頂いたと思えます。

も少なくありませんでした。しかし、いま思うことは、反省を積み重ねながらも、一人前の医師になろうと常に努力することが大事なのではないかということ。解剖学実習は、ご遺体と真剣に向き合うことを通して、医師になろうとする自分と真剣に向き合う時間だったのでないかとも感じます。



ハワイ大学医学部に留学して

医学部医学科三年 鈴木夏実

平成三十年八月、ハワイ大学医学部の研修に参加しました。ハワイ大学では全人的医療 Holistic care を提供するための考え方が Problem Based Learning などを通じて訓練されており、今回はその一部を体験させていただきました。各症例について考え、学生同士で議論し、発表するプロセスを踏む PBL によって日本で学んだ内容が多角的に理解できておもしろかったです。また、ビデオ判定でフィードバックがいただける医療面接試験は技能だけでなくコミュニケーションを取る楽しさや自覚が芽生え、学習意欲に直結する有意義なものでした。

巨大ハリケーンが接近する間も陽気に進行するレッスンは、非日常的でとても心地良かったです。また、現地の学生の自宅に招いてもらい将来への思いを共有したことが心に残っています。目先の試験ではなくその先の人生を見据えて毎日勉強しているというリアリティや覚悟の点で自分との大きな差を感じました。

英語で行われる医学教育に自分がどこまでついていけるか試すことや、海外の医学生との友達を作ることなどの目標をもって参加しましたが、こうしてアメリカの医学生の意識の水準に触れることができたのが私にとって何よりの収穫でした。将来的に彼らと同じ土俵に立つて遜色なく働けるよう、研鑽を積みみたいと強く考えています。

大きなチャンスを与えてくださった弘前市、弘前大学、先生方と学務の方々に心から感謝しています。



ハワイ大学での夏期研修で感じたこと

医学部医学科三年 藤原悠香

私は八月二十日から二十五日の五日間、ハワイ大学での夏期研修に参加させていただきました。何か新しいことに挑戦してみたいと思っていたときにこのプログラムを知り、迷わず応募しました。研修は日本の他大学とハワイ大学の医学生が参加し、PBLや現地の模擬患者さんへの禁煙指導、聴診器を用いた問診などを行いました。PBLでは、自分の医学知識の未熟さを感じましたが、日本の医学生もハワイの医学生も医学に関して同じような事を学んでいて、こうして英語を使って症例について話

し合えることにうれしさを感しました。大学の研修以外にも、参加した仲間たちと食事や観光を楽しんだり、フラダンスを教えられたり、現地で行きた友人の家に遊びに行かせてもらったりして、ハワイの文化に触れることができました。この研修に参加できて一番よかったことは、海外や国内の他の大学に、同じ医師を志す仲間ができたことです。帰国してからも、ハワイで出会った仲間も違う場所でも頑張っていると思うととても活力がわいてきます。今回こ

ハワイ大学夏季研修に参加して

医学部医学科三年 蝦名幸

はじめに、貴重な機会を下さった先生方、学務の皆様、心より御礼申し上げます。

ハワイ大学では主に①PBL、②医療面接、③聴診の研修を受けました。いずれも初めての経験で、しかも全て英語なので不安でしたが、なんとか乗り切ることができました。医療面接は模擬患者を用いて行い、ハワイ大学の先生からフィードバックを頂いたので非常にためになったと感じています。また、四年生後期にはPBLがあるので、その時には本研修の学びを還元できるように務めたいと思います。



研修の他に、ハワイ大学のような貴重な機会を与えてくださった先生方、学務の方々、そしてハワイ大学の方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

の医学生との交流を通して、彼・彼女らの学生生活も知ることができました。米国ではUSMLE（米国医師国家試験）の点数で進む科が絞られてしまうため、希望の科に進めるよう夜遅くまで勉強しているようです。ただ、勉強一辺倒ではなく、遊びや恋愛もあり、精神面の健康も大切にしているようでした。また、長期休暇中には基礎研究、希望する科の臨床実習、留学などに積極的に参加する学生が多いことも印象的でした。

最後に、本研修に少しでも興味を持った方はぜひ来年度の研修に応募してみてください。国境を越えて高い志を持った仲間に出会うことができ、人生の財産になると思います。

JABSONM留学について

医学部医学科四年 小又 咲

私は八月二十日から二十四日の五日間、ハワイ大学で夏季研修に参加させていただきました。去年と同様にPBLや医療面接を中心に行うということで、去年の参加者から話を聞き研修内容やハワイに行けるとい

う事実が心躍り、参加しました。あいに、ハリケーン直撃のニュースが流れ、学校や店が閉まり、研修自体は水曜日の午前で終わってしまいました。しかし、短い間で行った研修はとても濃

いものとなりました。行われた研修内容としては、PBL・医療面接・聴診・マネキンを用いた実習・フラの練習でした。実技的な研修・アロハランチ・レイ作り・フラの発表などはできず、非常に残念でした。

この研修のメインとなるPBLは、日本語での経験がなく、医学知識も浅く、しかも英語で行うということ、不安でいっぱいでした。しかし調べながら一生懸命取り組み、何とかやり遂げることができました。皆で英語で意見を出し合い、調べ、発表することで、知識面、言語面、コミュニケーション面、プレゼンテーション面などあらゆる方面において、レベルアップできたのではないかなと感じました。



授業外の時間では、JABSONMや他大学の学生と、ダイヤモンドヘッドに登山したり、ご飯や飲みに行ったりと交流を深めることができ、とても楽しかった。(次ページへ続く)

第61回 東日本医科学生体育大会夏季競技を終えて

女子バレーボール部 主務 内山 慈子

東日本医科学生体育大会、通称東医体は東日本医科学生体育連盟が主催する大会です。各加盟校には参与、理事、評議員が存在します。本学の参与は若林孝一医学部長、理事は今泉忠淳教授で、評議員は代々バレーボール部の主務が務めさせていただいております。評議員として60年以上続く伝統のある大会に携われることを大変光栄に思います。評議員の仕事としては、評議員会に参加することです。次の評議員会は11月3日に福島県にて行われる予定です。

平成30年度の第61回東日本医科学生体育大会夏季競技は、福島県立医科大学の代表主管で、例年通り8月に開催されました。本学からも多くの学生が参加し、個人・団体とも全力を尽くして戦ってきました。本学の主な好成績を取りまとめましたので、下の表をご覧ください。なお、冬季競技のスキーは3月に秋田県の田沢湖で行われます。

東医体は医科学生にとって最も大きな目標とする大会です。今後も各部とも勉学に励むと共に、冬季競技に向けて、また来年度の夏季競技に向けて練習に励んでまいります。ご声援のほどよろしくお願い致します。

(表) 平成30年度 第61回東日本医科学生体育大会夏季競技の主な好成績

ゴルフ部	男子 個人	八尾 祥吾 (6年)	3 位
陸上競技部	女子 円盤投	浦田 風 (5年)	3 位
ソフトテニス部	女子 個人	市川 歩美 (4年)	
		岩淵 那海 (1年) 組	2 位
水泳部	女子 400m 自由形	岩下 葵 (2年)	2 位
ラグビー部			準優勝
空手道部	男子 個人形	横山理久斗 (1年)	優勝
	女子 団体組手		優勝
	女子 総合		3 位

(前ページより)

長いようで短い一週間でしたが、研修を通して新しい知識や語学力を身に着けるだけでなく、外国の方の考えや街の様子、日本の他大学の様子などを知り、とても感化されました。ハワイの良さ、日本の良さ、弘前の良さを改めて確認する

ハワイの街を堪能しよう

医学部医学科四年 工藤 珠星

ハワイ大学の研修では、当初思っていたよりもはるかに多くの経験が出来ました。

大学での研修自体も、講義や実習、PBL、模擬患者さんとの医療面接といった多様な学習をさせていただきました。

現地の学生の方々の意識の高さや知識の深さに圧倒され、自らの力不足を痛感しながらも課題を見つけていくことが出来ました。ハワイ大学や日本の他大学の学生の方々と、普段大学の中だけにいては会えなかった多くの人と学内外で交流できたことと



ことができたような気がします。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった先生方、学務の方、ハワイ大学の方々に心より感謝しております。本当にありがとうございました。またこのような機会がありましたら、ぜひ参加させていた

ことができたような気がします。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった先生方、学務の方、ハワイ大学の方々に心より感謝しております。本当にありがとうございました。またこのような機会がありましたら、ぜひ参加させていた

晴間でこれからハリケーンが近づくととても思えない空模様でした。しかし数日前に大学は閉鎖を決定、さらにほとんどのお店が最接近予報の前日から閉店するという対策を取っていました。

海沿いであることも影響したのかと思いますが、毎度ハリケーンで何かしらの被害が起きているのかと現地の学生に聞くと「結局はほとんど来ない」とのことでした。正直なところ、店が閉まっていたので行きたくは残念でしたが、街全体が万が一に備え出来る対策をとる光景を目の当たりにするのは初めてで、とても印象深く感じました。

最後にこのような貴重な経験を頂いた弘前大学の先生方、学務の皆様、ハワイ大学の関係者の方々に感謝いたします。

段と違う学習環境に居られたことで非常に楽しく充実した時間を過ごせました。このことについては他の方も詳しく書いていますので、こちらから、他に私が気づいたことを紹介します。

ハワイ大学夏期セミナーに参加して

医学部医学科四年 下鳥 泰大

八月二十日から二十四日にかけてハワイ大学 John A. Burns School of Medicine で行われた夏期セミナーに参加させていただきました。ハリケーンの影響でPBLが中心の研修になってしまいましたが、非常に有意義な体験をすることができました。

PBLとは Problem Based Learning の略で、臨床的なシナリオから自ら課題の発見・解決を行っていくグループ学習です。これまでの座学で与えられる知識と異なり、自発的に課題を見

留学先から (ハワイ)

医学部医学科四年 廣 兼 正 明

ハワイ大学でのPBLでは、ハワイ大学の生徒がチューターで、僕たち日本の学生が話した内容について、適切なところで誉めたり、アドバイスを言ったりしていました。日本の学生が意見を言いやすい環境にしてくれたので、積極的に発言することができました。自分もハワイ大学の生徒のように場を盛り上げるためのコミュニケーションスキルを磨かなければならないと感じました。

また、患者さんに禁煙を勧めるための診察方法を学び、ボランティアの方の前で模擬診察を行う機会がありました。驚いたのが、そこでそれぞれの生徒に向けてフィードバックをしていくことでした。実践を交えて自分のコミュニケーションのどこに問題があったのかを学ぶことができるので、自分の改善点が明確に解り、モチベーションを保ちやすいシステムだと思いました。

ハワイ大学での研修を通して思ったことは、人と人ば吸収していき、そして自発的に知識を求め姿勢を身につけていくことが、今後役に立つことだと強く感じました。今回得られたこの感覚や考え方を忘れずに、今後の人生に生かして参りたいと思います。

最後に、この素晴らしい機会を与えてくださった先生方、学務の皆様、ハワイ大学の方々に心より感謝申し上げます。

ハワイ大学夏期研修に参加して

医学部医学科五年 小野 海舟

二〇一八年八月二十日より、ハワイ大学にて行われた夏期研修に参加しました。問診・診察・禁煙外来の英語での進め方、そしてPBLに関してハワイ大学の先生方並びに学生から指導を頂きました。

滞在中最も驚いたことはハワイ大学の医学生の実験量です。テスト期間ではない時も、授業以外に一日八時間勉強するそうです。そんな中、私たちに多くの時間を割いてくれたのには、昼休みは学校の近くのレストラン、夜は観光ガイドブックには決して載っていないであろう地元民ならではの店に連れて行ってもらいました。そのため毎日新鮮で本当に楽しかったです。

今回の研修は日本全国から八校の医学部、総勢二十五名が参加しており、他校の医学生と出会ったことも貴重な体験でした。ある大

学では医学英語を四年生まで毎年学ぶようで、確かに群を抜いて医学英語の知識が豊富でした。日頃他大学の医学生と関わる機会がほとんどないため、お互いの

海を隔てた遠い場所、医師を目指す学生がいるというのは自分にとって高いモチベーションになりました。今後彼らと再び会った時に恥ずかしくないようにしっかりと医学と英語の勉強を続けていきたいと思いました。



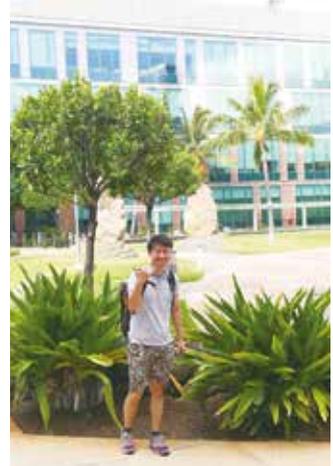
大学等のことを語り合うことで良い刺激になりました。ハリケーンの影響で五日間の研修の予定が三日間に減ってしまいましたが、アロハな人々に囲まれとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。このような素晴らしい機会を頂いたことへの感謝の気持ちを忘れず、これからも日々精進して行きたいと思えます。



ハワイ大学のプロパティの感想

医学部医学科五年 米田 晃士

平成三十年八月二十日から二十五日の間、ハワイ大学に行かせていただきました。大学のプログラムで印象的だったのは、模擬医療面接とプレゼンテーションの二つでした。海外で短期間の授業をうけた経験は、将来研究、学会で海外にいても、自分の意見を伝えることにつながると思いました。



模擬医療面接では、現地の方が模擬患者さんになり、英語で病状を聞き取り一緒に模擬患者さんと治療方針を話し合う形式でした。ネイティブの人と一対一で話したのは初体験でした。模擬患者さんにおまかなことは理解してもらえなかったのですが、適切な言い回しや表現が不十分だったので、自分の詳細な考えを伝えるのが難しかったです。例えば、模擬患者さんが禁煙したい場合、ニコチンを含む禁煙パッチや

は、指定の疾患を調べて、その内容を他の学生達に説明する形式でした。少ないながら医学の知識はあるので、調べたことをおまかに説明できたのですが、模擬医療面接と同様に細部までは伝えられませんでした。これら二つを通じて、英語で自分を表現する能力が不足していることに気づきました。将来研究や学会にいくのであれば、英会話の経験を積んで、状況にあった英語で自分の考えを伝えられるようにしたいです。

JABSSOM夏期研修に参加して

医学部医学科六年 石橋 光

私はこの夏、八月二十日から二十四日の五日間、ハワイ大学 JABSSOM の夏期講習に参加させていただきました。入学前から医学留学は夢だったので、

今年この研修の存在を知り、学生生活最後の挑戦のような気持ちで応募しました。研修ではPBLを中心に (次ページへ続く)

(前ページより) 討論を行い、加えて効果的な医療面接法や基本的な身体診察について学びました。私が研修期間中最も驚いたことは、JABSSOMの学生の医学的知識の完成度の高さです。JABSSOMは二年生が多い中、円滑な討論法や系統的な病態生理に基づいた知識を持っており、とても良い刺激を受けることが出来ました。生憎ハワイに台風が接近したため、四日目・五日目の研修は無くなってしまいました。それが出来たと思えます。また、他大学の学生も多数参加しており、JABSSOMや他大学の学生と国際

交流を経験することが出来ました。大学内はもちろん、大学外でも食事や観光を共にし、ハワイの明るい文化を体感できました。国際医療に興味のある私にとって、在学中に貴重な経験を出来たことをとても幸運に思います。

三沢米軍基地での実習を経て

医学部医学科五年 田村 麻里子



医学科五年の田村麻里子です。八月の五日間、三沢米軍基地内の病院で実習させていただきました。昨年三沢の実習に参加した先輩からのお話を聞き興味を持ち参加を決めました。これまで英会話を習っていたこともなく、海外旅行も台湾のみだったため英語で話すという経験はほぼ0の状態でした。三沢に行く直前になって駅前留学をしてみたいという英語で単語を予習してみたりしましたが実際に行ってみると、毎日自分の勉強不足を痛感するばかりでした。当たり前ですが自分の周りには英語を話す人ばかり、医療用語も飛び交っています。理解するよりも早く流れていく会話についていけない私に易しい英語で話してくれたスタッフの方々に感謝とともに申し訳なさを感じました。ホームステイ先の女性もとても優しく私の話も聞いてくれます。

最後にになりましたが、このように研修の機会を与えてくださった弘前大学の先生方をはじめ、学務の方、そしてJABSSOMの先生や学生、関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。本研修で得たものを今後生かしていきます。本当にありがとうございます。

何でも褒めてくれる)、ご飯が多すぎたり、病棟の廊下を歩いているだけでドーナッツをもらえたり、ホームパーティーが当たり前、仕事が終わるとサーフィンに行ったり、最終日の外食は全て休診でビーチパーティーの予定だったりと、度々診察が求められるだろうなと思えました。他にもカッコいい美人女医さんがたくさんいたり(しかも皆すごく優しくノリが良く

してくれました。英語で会話ができるようになるためには単語や文法を知ることが必要ですが、とにかく話してみようというのも大事なのだと感じました。病院実習としては診察や手術を見学させていただけました。日本とは異なる体制や方法を知ることができました。今回の実習を経て、もっと勉強しよう、英語で話せるようになりたいという意欲が高まり有意義な経験をすることができたと思えます。

五週間という短い期間でしたが、夏休みを利用して三沢米軍病院で夏季研修をさせていただきました。毎日、異なる科を回らせて頂きました。中でも一番印象に残っているのは小児科です。私の志望科の一つが小児科であることを考慮して下さり、実際に患者さんの診察を一からやらせて貰いました。私の拙い英語に対して、指導医が優しくフォローして下さい、また患者さんのご家族も温かく見守って下さり、とても嬉しかったです。出来は決して良いとは言えないものではありますが、自分の反省点に気付くことが出来ました。それは、思

電車で行けるアメリカ

医学部医学科五年 並木 沙奈実



「名城大学、十二年ぶり二回目の優勝！」昨年度このニュースが流れてから早一年。昨年に続き今年も十月二十八日仙台市にて開催された全国大学女子駅伝(杜の都駅伝)に、サポートチームの一員として応援に行っていました。結果はタイトル通り「初の二連覇！」。今年も選手たちに大きな感動をいただいたので、今年度の私たちの活動を報告させていただきます。

前回は「第84号、今年三月発行」本紙で優勝報告した際に、平成二十二年から開始した弘前大学医学部社会医学講座(梅田孝元准教授、現名城大学薬学部教授)と整形外科科学講座(石橋恭之教授)による名城大学女子駅伝部(米田勝朗監督)のメデイカルサポートについて、報告させていただきました。今年度も、五、七、九、十月と駅伝部の寮

を訪問し、体組成や骨密度、採血検査に加え、個別に選手の状態を確認しながら疼痛部位の診察やタイトネス評価などを行って頂きました。これらのメデイカルチェックの主目的は、女性アスリートの三主徴(利用可能エネルギー不足、無月経、骨粗鬆症)と貧血の予防・改善です。そのなかで、

三沢米軍病院での研修

医学部医学科五年 石井 伯昂

八月二十日から二十四日の五日間、三沢米軍病院にて研修をさせていただきました。研修の志望理由としては、青森県でありながらアメリカの医療に触れられるという魅力と英会話を上達させたいと思ったからです。

三沢米軍病院での研修で感じた日本と一番異なる点としては医師と看護師の他にPA (Physician Assistant) という職種があるという点です。PAとは日本で言うところの「看護士」の中間に当たる職種で、医師の監督の下、診察やカルテの記入、問診、手術の補助などをします。PAの存在により医師は高度な臨床判断や高度な技術を要する医療行為に専念できます。

PAの Grossky という方に泊めていただきました。とても気さくな方で独身ですが毎日友人を呼んでパーティをしたり、ピリヤードしたり、ある日は人生初のサーフィンにも挑戦したりと楽しく過ごすことができました。

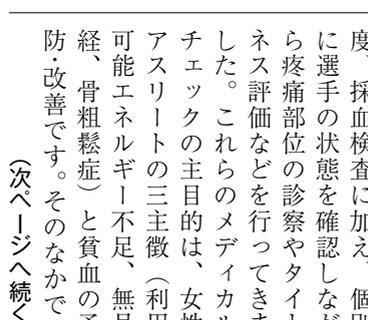
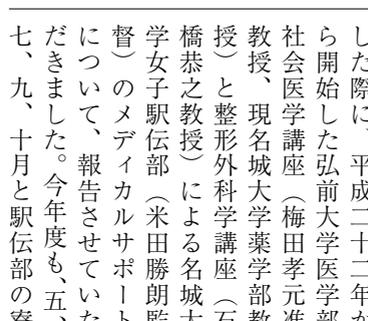
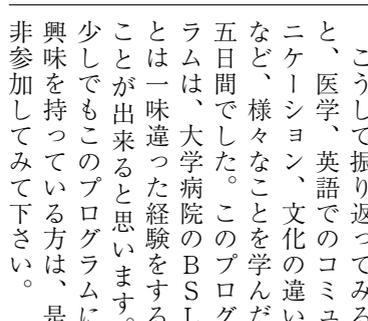
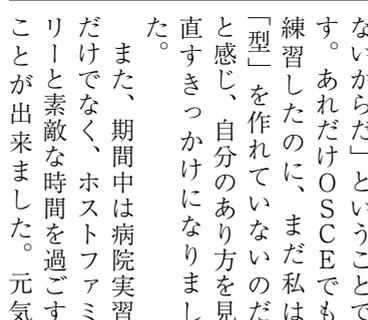
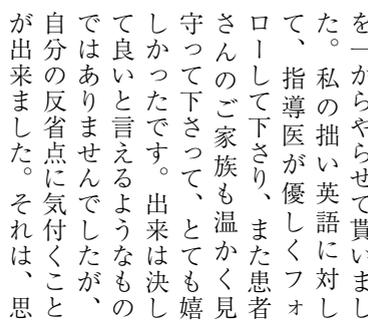
全体を通して言えることは三沢で出会えた全ての人々が僕の拙い英語に耳を傾けてくれたこと。また英会話に関しては自分の目指したいレベルが明確に定まったので、今後この機会を決して無駄にせず精進していきたいと思

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった先生方、関係者の皆様厚く御礼申し上げます。

五週間という短い期間でしたが、夏休みを利用して三沢米軍病院で夏季研修をさせていただきました。毎日、異なる科を回らせて頂きました。中でも一番印象に残っているのは小児科です。私の志望科の一つが小児科であることを考慮して下さり、実際に患者さんの診察を一からやらせて貰いました。私の拙い英語に対して、指導医が優しくフォローして下さい、また患者さんのご家族も温かく見守って下さり、とても嬉しかったです。出来は決して良いとは言えないものではありますが、自分の反省点に気付くことが出来ました。それは、思

「名城大学、十二年ぶり二回目の優勝！」昨年度このニュースが流れてから早一年。昨年に続き今年も十月二十八日仙台市にて開催された全国大学女子駅伝(杜の都駅伝)に、サポートチームの一員として応援に行っていました。結果はタイトル通り「初の二連覇！」。今年も選手たちに大きな感動をいただいたので、今年度の私たちの活動を報告させていただきます。

を訪問し、体組成や骨密度、採血検査に加え、個別に選手の状態を確認しながら疼痛部位の診察やタイトネス評価などを行って頂きました。これらのメデイカルチェックの主目的は、女性アスリートの三主徴(利用可能エネルギー不足、無月経、骨粗鬆症)と貧血の予防・改善です。そのなかで、



(次ページへ続く)



「追う立場」から「追われる立場」となり、監督・コーチ・選手の例年以上の強い思いをひしひしと感じてきました。駅伝当日、順当にいけば名城大が二連覇というプレッシャーのなか、私たちが現場で一緒に応援させていた、優勝のゴールテープを切った時は感動をいまだくとも安堵感を感じました。

今年も年末に開催される全日本大学女子選抜駅伝(富士山

(前ページより) 疼痛を訴える選手のなかには私達が専門とする整形外科的ケアをすれば練習が続けられるような選手もいますが、なかには疲労骨折の前症状のような選手もあり、目標とする大会に調子を合わせられるよう練習量の調整などをアドバイスしてきました。弘前から名古屋のチームをサポートするため、いつでも診察ができるわけではありませんが、検査結果や携帯アプリなどで選手一人一人のコンディション状況を監督やコーチと一緒に把握しながら、問題点や改善方法を電話でも取りをすることで、少しでも適切なアドバイスができるように心がけています。

選手のなかには東京五輪を目指し日本代表として世界で戦っている選手もいます。また、選手たちを間近で見ていると、選手たちは常に如何にパフォーマンスを落とさず健康を維持していくかを念頭に置きながら、自らを極限まで追い込み、厳しいトレーニングを日々行っていると感じま



す。このためサポートチームでは私たちがだけでなく、名古屋学芸大学管理栄養学部による栄養管理、婦人科による月経に関する問題への対策など、多方面からサポートしています。これらの人たちが連携し、選手が疲労骨折や貧血等のオーバートレーニングで長期にわたり競技を離脱しなくていように、予防や改善策を考究・指導し、より適切なコンディショニングを選手にしてもらえようサポートしています。また、現在は選手が引退した後も女性として健康な生活が維持できるように、選手の引退後の調査にも取り組んでいます。

若手教員・医師だより

これまでを振り返って

附属病院 産科婦人科 助教 伊東麻美

平成十八年に弘前大学を卒業し、青森市民病院で初期研修を終了後、弘前大学医学部産科婦人科学教室に入室しました。医師となり早十三年、教室の名札も上から教えた方が早くなりま

も実験を続け、無事に博士号を取得することができました。この研究成果をアメリカでの国際学会で発表する機会にも二度恵まれました。

話は前後しますが、大学卒業後、産婦人科を専攻した同級生は皆県外で働く道を選択した中で、当教室に入室したのは私ひとりのみでした。同期がおらず心細く寂しさはありましたが、先輩方に懇切丁寧に指導して頂き、日々充実した生活を送ることができました。専門とする周産期の研究グ

ループについては、今ではメンバーが増えてきました。先生と二人のみという時代もありました。そのような環境の中でも臨床経験を積み、周産期専門医も取得できました。近年、産婦人科に入室して後輩も増えており、複数人いる学年が羨ましくもあり、また頼もしくもあります。

私生活では二児の子育てに奮闘する日々を送っております。教室のご理解があり、しっかりと育児休暇を取ることができ、育児休暇中は子供と濃密な時間を過ごすことができました。育児は思い通りにいかないことばかりですが、昨日できなかったことが今日できるようになったとか、「ごはん

おいしい」と言ってくれたりとか、小さな喜びを幸せに感じています。産婦人科として、自身の身体で妊娠、出産を経験できたことも非常に貴重で、妊婦さんの気持ちをもっと理解でき寄り添えるようになったと感じています。また、産婦人科には仕事と育児を両立させている女医さんが多く、目標としておりますが、実際、ひとりではどう頑張っても限界を感じます。家族やお世話になっているひろだ保育園、周囲の方々のご理解とご協力があったことで、日々感謝してまいります。

最後に、少しでも産婦人科に興味のある方は気軽に教室にいらして下さい。

若手教員・医師だより

生命の誕生に関わる産婦人科の魅力

附属病院 産科婦人科 講師 福原理恵

私は平成十三年に弘前大学医学部を卒業し、弘前大学産科婦人科学教室に入室し産婦人科医として働いて十七年目となります。思えば、中学生の頃にNHKスペシャル「人体」で卵子と精子の受精から生命の誕生に至る映像を目にしてその神秘さに感動したことが、医学に興味をもったきっかけでした。その後、大学時代の産婦人科での実習で、卵細胞に精子を注入して受精させる顕微受精や、その不妊治療により妊娠された患者さんが出産し赤ちゃんが誕生するところを目に

し、生命の誕生にたずさわることができると産婦人科医になることを決意しました。

産婦人科の中でも生殖医学・内視鏡手術を専門としていますが、大学院では「加齢女性の胚の質をいかにして改善させることができるか」ということをテーマに研究し、学位を取得いたしました。いまや体外受精胚移植を主体とする生殖補助医療により生まれるお子さんは十八人に一人となり、非常に重要な治療となっております。女性の社会進出によりお子さんを希望する年

齢が高齢化していることにより、女性の加齢による不妊症患者さんや様々な合併症をもつ患者さんが増加しており、産婦人科医単独では対処することは困難であり、他科の先生方、胚培養士、看護スタッフなど様々な方々との連携で診療することができています。産婦人科医として、不妊治療で授かった命が無事、この世に誕生する喜びを感じ、一方で、非常に難しい症例も多く存在し、日々、命が授かることの奇跡を実感しています。

もともと手先が器用ではない私が、産婦人科医としてなんとか働くことができていたのは、教室の諸先輩方のおかげです。胚や精子をおつかう細かい作業や、鉗子を用いた内視

鏡手術は、入室時から非常に興味があったものの、当初は自分でも呆れるくらいできない状態で、このまま産婦人科医として働くことができないのかと不安になってきました。そんな私にも温かくも厳しく、あきらめず指導し続けてくれた教室の先輩方に支えられ、大好きな産婦人科の仕事の日々することができ、感謝しております。ずっと新人の気持ちで仕事をしていたことが、幸せなこと

に、今では多くの頼れる先輩もできました。産婦人科教室は、横山教授のもと、研究・教育・診療に没頭する先生、育児と両立しながら仕事に邁進する先生、などなどみな様々な立場でありながらも仕事に真摯に取り組む、プライベートな面でも支え合う仲間がいるあたたかい教室です。この教室で、生命の誕生に関わり次の世代へつなげていく産婦人科ならではの医療を共に頑張る仲間を男女問わず、募集中です!



公益社団法人 青森医学振興会

沿革 平成11年3月1日 弘前大学医学部医学科後援会鶴岡医学振興会発足(任意団体)
平成24年4月1日 公益社団法人青森医学振興会設立許可(青森県)

振興会では、21世紀の青森県の医療を積極的に支援しようとする事業を行っております。
○ 医学教育の助成 教育活動を活性化するための支援
○ 医学研究の助成 研究活動を高度化するための支援
○ 地域医療振興事業の助成 地域医療に貢献するための支援
○ 医学国際交流の助成 国際学術交流の支援

随時、会員の募集とご寄附の受付をしております。
会費と寄附金の納入方法は下記の通りです。

口座名	社団法人 青森医学振興会	
口座	青森銀行 弘前支店	普通 1087485 ※ 各銀行の本支店及びゆうちょ銀行から振込む場合は、手数料無料です。
	みちのく銀行 大学病院前支店	普通 0198579
会費	ゆうちょ銀行振替(旧郵便振替)	02200-4-57580
	会員種別	年会費
	医学部教員	1万円
会費	医学部卒業生	2万円
	賛同する個人	1万円
	賛同する団体	10万円

お問い合わせ TEL:0172(33)5111内線6519 E-mail:jimu@aomori-mpm.jp

部活動紹介

バドミントン部

医学部医学科三年 檜山 鴻



弘前大学医学部バドミントン部は、卒業生が引退し、現在男子十六名、女子十名の計二十六名で活動しています。毎週火、木、土、日の週四回、文京地区の第二体育館で練習に励んでいます。また、土日の練習後には自主練習を行っているのですが、多くの部員が自主練習に参加し、アドバイスをしあひながらお互いの技量の向上に努めています。バドミントンと言えば、男子シングルの桃田賢人選手や女子ダブルスの福島・廣田ペアを始め、日本

人選手の国際大会での華々しい活躍が注目を集めています。多彩なラリーや巧みなショットで相手を翻弄し、体格差がある選手とも互角以上に渡り合えるのがバドミントンの最大の特徴の一つです。

医学部バドミントン部には大学からバドを始めた人も多数在籍しています。初心者をはじめの部員には先輩が丁寧に指導するなどして技術の向上を図り経験者に引けをとらないほど活躍している部員もいます。このように先輩後輩を問わず部員同士で気軽にアドバイスをしあう雰囲気があるのもバドミントン部の魅力の一つです。

主な大会は五月に行われる北医体、八月に行われる東医体（医学科）、九月に行われる北保体（保健学科）があり、すべての大会で部員全員が出場可能で、経験者未経験者問わず練習の成果を発揮することが出来るのもまた、バドミントン部の一つの魅力です。その他に、秋田大学、山形大学との三大学合同定

ソフトテニス部

医学部医学科三年 中村 宙哉

弘前大学医学部ソフトテニス部は、現在男子二十六名、女子二十三名、計四十九名で活動しています。現在は、今年度の大会がすべて終わり、次のシーズンに向けて体力づくりや基礎練習に励んでいます。今年度は、北医体で男子団体第三位、女子団体第四位、東医体では男女とも準決勝トーナメント敗退、その後引退生がぬけた新チームで戦った秋季リーグでは、男子団体第三位、女子団体準優勝という成績を収めることができました。

ソフトテニス部には、経験者だけではなく初心者も数多く在籍しています。経験者、初心者関係なく教え合い、互いに切磋琢磨しながら練習に励んでいるので、初心者でもどんどん打てるようになっています。部員は、医学科だけでなく保健期戦や岩手医大、東北大学との定期戦も毎年開催している、他大の学生とも親交を深めることが出来ます。

その他にも部員一同でキャンプをしたり、また、部内班として、野球班やスィーツ班、スパイシー班、米部などがあり、それらの活動を通したりして、部員同士の親睦をより一層深めています。



現在私たちは、北医体の団体戦男女優勝、各部員の個人戦入賞を目標に練習に励んでいます。今までの大会での悔しさをバネに、目標達成に向かって、部員一人丸となって取り組んでいきたいと思えます。

ソフトテニスにはシングルスもあるのですが、ダブルスが主流で、私たちが出ている大会も団体戦個人戦すべてダブルスで行います。そのため、ペアの信頼関係が重要となります。ラリーの中で、様々な駆け引きが繰り広げられます。その中で、二人で一本とる

写真コラム(2) 衛生昆虫研究室

脳血管病態学講座 教授 今泉 忠 淳

昭和30年(1950年)代以前には、日本人の多くが寄生虫に感染しており、医学上重要な問題でしたが、弘前大学医学部には、昭和41年(1966年)に寄生虫学講座が設置されました。寄生虫学講座には、衛生昆虫研究室という研究室もあったようです(写真:耐震工事前の2007年撮影)。しかし、寄生虫の感染率は、衛生状態の改善や学校での検診などで激減し、1970年代以降は「ゲテモノ食い」や「海外旅行」などでの感染を除くと寄生虫疾患は殆ど見られなくなりました。そういう流れに沿うように、弘前大学医学部では、平成18年(2006年)に細菌学講座と寄生虫学講座とを改組し、感染生体防衛学講座が設置されました。一方では、寄生虫の感染が激減したころから、反比例するようにアレルギー性疾患が増加しています。はっきりとした証拠はありませんが、寄生虫の感染激減がアレルギー性疾患の増加を引き起こした、という有名な学説があります。寄生虫の激減が日本人の寿命の延長に寄与したことは間違いのないと思えますが、そもそも、数百万年前に人類が地球上に現れてから1970年頃まで、人類は寄生虫と共存してきた訳ですから、寄生虫を目の敵にしてほぼ撲滅してしまったことは果たして良かったことかはわかりません。



漢方医学研究会

医学部医学科三年 工藤 千佳

漢方医学研究会は現在四十名が在籍し、日本の伝統医学である漢方医学を学んでいます。漢方医学は、中国医学が日本に伝わり、国内で独自に発展した学問です。活動は毎週月曜日の定例会を主とし、定例会では部員が調べたことを発表する形をとっています。今

年度は、生薬のひとつ「麻黄」を生で食べて動悸や発汗といった作用が出るか試したり、インドを旅した部員が(中国医学とともに世界三大伝統医学のひとつである)アユルヴェーダ体験話をしたりと、エンターテインメント性に富む会が多くありました。定例会だけでは物足りない部員は種々の講演会・勉強会に参加し、より体系的に学んでいます。基礎概念はもちろん、近年は薬理作用が科学的に明らかになった漢方薬もあり、臨床での実践的な使い方も学ぶ貴重な機会となっております。

もちろん、勉強だけの集団ではありません。多くの運動部には北医体がありますが、東北・北海道の東洋医学系研究会が集まる。合



同学習会が毎年行われています。ここでは各団体の活動発表や交流会が行われます。他大学の団体と関わりが少ない私たちにとり、合同同学習会は貴重な交流の場であるとともに、部員の意欲向上にもつながっています。

勉強会で得た知識を外に発信する活動もしています。弘大祭では漢方喫茶を出店し、生薬に関連したお茶やお菓子を提

供したり、実物の生薬を展示したりと、地域の方々に漢方薬に親しむを持っていただけるよう工夫しています。今年度は、大

棗の生薬名で知られるナツメなどのお菓子、杏仁のお茶が大

人気でした。

従来、いわゆる東洋医学は科

小児科学講座

小児科学講座 教授 伊藤悦朗



小児科学講座は七十年以上の歴史があり、地域医療を支えながら多くの優秀な小児科医を輩出してきました。青森県の小児医療は、大学病院を中心に青森県内の関連病院が有機的に結びついて全体として機能的な小児病院群を形成して行われています。最近、この病院群に八戸市民病院が加わり、さらに充実したシステムになってきました。弘前大学医学部附属病院は、小児科領域の各種専門家を有する県内唯一の医療機関として、県内外の医療機関から紹介される重篤な患者さんの診療を行っています。小児医療は、血液・腫瘍、循環器、腎、神経疾患、アレルギー、代謝・内分泌などの全ての内科疾患に加え、未熟児・新生児疾患をカバーすることが求められ



ます。血液グループでは、血液疾患、小児がん、免疫不全症を中心に診療を行っています。小児がんは比較的稀な疾患であるため、より良い治療法を開発するために、多施設が協力して臨床試験を行う必要があります。私たちは、日本小児がん研究グループ（JCCG）に所属し、白血病などの造血器腫瘍も神経芽細胞腫などの固形腫瘍もJCCGの臨床試験に参加し、治療に当たっています。また、当科は、ダウン症の一過性異常骨髄増殖症と急性巨核芽球性白血病のJCCGの中央診断施設の役割も果たしています。最近、ダ

ウン症の白血病に起こっている遺伝子異常の全貌を明らかにすることに成功しました（Nature Genetics 2013）。難治性血液疾患の治療のため、造血幹細胞移植を用いた治療研究を積極的に行っています。現在までに延べ二百例以上の造血幹細胞移植を行っています。最近では、HLA半合致血縁者間移植、KIRリガンドミスマッチ腫瘍移植、難治性固形腫瘍に対する同種造血幹細胞移植などにも取り組んでいます。世界に先駆けた新しい移植にも成功しており、二〇〇六年には、世界で初めてNEMO遺伝子異常による先天性免疫不全症の患者さんに対する造血幹細胞移植に成功しました。心臓グループでは、先天性心疾患や川崎病などの後天性心疾患の診療・研究を行っています。先天性心疾患をはじめとする小児の心臓病の治療には、診断から治療そして治療後の管理まで、患者さんの必要に応じた内科的・外科的・総合的なチーム医療が不可欠な分野です。心臓病の子供たちが胎児から成人まで、その一生を通して最良の生活ができるように少しでもお手伝いすることを目標としています。手術において先進的な治療方法を開拓し、胎児診断にも積極的に取り組み、最適な治療計画を考へることで、重症な赤ちゃんも数多く助けることができるとなりました。また、最新のカテーテル治療の導入も積極的に行い、治療の選択枝を広げる努力をしています。基礎研究としては、心筋病理学的知識に基づいた不整脈解析、川崎

病、特に冠動脈病変を有する症例の急性期及び遠隔期における心筋病変、並びに微小血管病変の解析、各種心筋症における遺伝子解析、心不全と神経体液因子の関連、心拍変動の臨床応用等、小児循環器疾患に関する研究に幅広く取り組んでいます。腎臓グループでは、小児腎臓病、自己免疫性疾患、アレルギー性疾患を対象として診療、研究を行っています。特に、腎疾患・自己免疫性疾患のより非侵襲的かつ有効な免疫抑制療法の開発を一貫して行っています。基礎的な研究としては、培養ヒトメサンギウム細胞を用いた自然免疫系経路を介した炎症機構の解明とその制御に関する研究、腎疾患の非侵襲的検査法の開発を目的とした尿沈渣細胞を用いた各種機能分子ELISA発現の研究を行っています。さらに新たなテーマとして、難治性ネフローゼにおけるPodocyte

上のSMPD3bの役割について腎生検組織、尿検体を用いた解析を行っています。以上の研究成果は国内外の専門誌に継続して報告されており、内科領域を含む国内外から広く注目されています。神経グループでは、小児神経疾患、筋疾患、一部の代謝疾患の診断・治療ならびに早産児の成長発達、発達障害児のフォローアップを対象として診療・研究を行っています。小児神経疾患では、急性脳症、自己免疫性脳炎のような集中治療を要する疾患や、難治てんかん、大脳白質変性症、ギランバレー症候群、水頭症、二分脊椎等、幅広い疾患の診療を行っています。また、進行性筋ジストロフィー、先天性ミオパチー等の筋疾患についても遺伝子検査、筋生検による診断、治療を積極的に行っています。お役人はうまく「選択」できると信じているようだ。筆者は、以前、某研究拠点近くにいたのだが、「集中」している研究室では、使えないような研究費が与えられる結果、半年は使えらる消耗品も一回使っただけで廃棄、というような事例をよく耳にした。そもそも、「集中」している研究者は科研究等のシステムでも潤沢な研究費が与えられているので、追加してもあまり意味はないのである。というところで、今回の「こぼれ話」にオチはありませ

コラム 医学部こぼれ話

本庶佑先生のノーベル生理学・医学賞受賞は、まことに慶ばしいニュースで、本庶先生が本学医学部の密員研究部門の教授もされていたという御縁もあるということ、たいへん素晴らしい。ぜひ、医学生諸君も、大いに刺激を受けて基礎研究にも興味を持ってくださると嬉しいですね。しかし、運営費交付金の減額など、国特にZ省（セクハラで事務方トップが辞任）やM省（幹部が子供の裏口入学を依頼）が進める「日本の科学職減計画」が着々と成果を挙げつつあり、国内の研究者を取り巻く環境は厳しさを増していることから、近年のノーベル賞ラッシュも、日本の科学の最後の輝きとなる可能性が高い。本庶先生もおっしゃっていたが、基礎研究ではどの萌芽が将来花開くかを予測することは不可能なため、ある程度総花的に研究費を

分子生体防御学講座

分子生体防御学講座 教授 伊東健

を肌身に感じてはや十二年を数えませんが決して満足できる業績を残せておりません。ともに研究部門を構成する糖鎖工学講座とともに高度先進の掲げた「ポストゲノム研究」を推進することにより基礎と臨床の架け橋になるような研究センターに成長させることが当講座の使命です。生体防御という非常に幅広いですが、私共の講座では主に「酸化ストレス」に対する防御機構」特にその中でもNrf2ストレス応答（次ページへ続く）

（前ページより）
経路を主題に研究していま
す。その防御機構の破綻が
加齢による疾患などの種々
の疾患につながっているも
のと考えられます。活性化
素の主要な発生源であるミ
トコンドリアの機能異常に
対する恒常性維持機構など
も重要な研究対象です。転
写因子「NF-κB」はこの恒常性
維持機構に重要な役割を果
たしますが、ミトコンドリ
ア異常がNF-κBを活性化す
る詳細な分子機構などにつ
いて研究しています。ミト
コンドリア機能低下・異常
は加齢を促進すると考えら
れますので、これらはアン
チエイジング研究につなが
る大事なものであると考え
ています。現在は、中略特
任教授を研究リーダーとし
る文部科学省のCOI拠点
でアンチエイジング研
究を推進す
るとともに
野菜生命科
学講座とも
連携して健
康寿命の延
伸に取り組
んでいます。
さらに、高
度先進一丸
と進んで、
医学研究科
共通機器セ
ンターの運
営にも取り
組んでいます。
将来的には、
健康未来イ
ノベーション
センターを
拠点に、疾
患の予兆を
基盤にした
個別化予防



の研究に貢献して行ければ
と考えております。講座と
しては、教授の私とスタッ
フ三名、技術補佐員が一
名、秘書一名、そしてハン
ガリーからの大学院留学生
が一名の小所帯ですが、臨
床講座からの大学院生、国
内他大学からの研究生、中
国医科大学からの大学院生
さらには野菜生命科学講座
のスタッフなど多くの方が
当講座で活動するようにな
りました。この場を借りて
共同研究をしていただいで
いる医学研究科の各講座の
先生方に御礼を申し上げます。
先生方には、どうぞよろしく
お願い申し上げます。

日本は超高齢社会を迎
え、健康寿命の伸延が国を
あげた重要なテーマとなっ
ています。加えて、仕事、
社会での役割から趣味に至
るまで、健康であるための
目的も多様化がすすんでい
ます。運動器診療では、高
齢者の骨粗鬆症性骨折や退
行性疾患に加えて、乳幼
児、小児疾患、若年期のス
ポーツ損傷、外傷まで幅の
広い疾患の知識、診療技術
が求められます。
競技スポーツにおける低
年齢化や高度化、健康維持
のための健康スポーツの普
久は、スポーツ損傷に対す
るアプローチも変化させて
きています。その治療に
よって単に疾患を治すだけ
ではなく、競技復帰から再
発予防、生活習慣予防まで
目指すゴールの幅も広がっ
ています。小児のスポーツ
障害は増加している一方
で、内反足のような小児疾
患を一般診療で診る機会は
減少しました。しかしなが
ら、先天性疾患であれス
ポーツ障害であれ、小児疾
患の初期治療の重要性は変
わるものではありません。
二〇一六年から学校保健法
施行規則が改正され、運動

書籍発刊

日常診療のエッセンス 下肢



附属病院 整形外科 講師 和田 簡一郎

器検査が学校検診に取り入
れられ、小児における整形
外科疾患も予防の時代に入
ってきています。また、
整形外科領域においては、
今も骨折・脱臼などの外傷
治療が基本ではあります
が、骨粗鬆症に伴う脆弱性
骨折や変形性関節症といっ
た退行性疾患を扱う機会が
増えていきます。この様に、
社会の変化によって、整形
外科疾患が増加するばかり
ではなく、求められる整形
外科医の役割が益々多様化
することに、結果として、
整形外科医に求められ
ていきます。日本の整形外
科医は運動器の専門家とし
て、初期診断、保存治療か
ら手術治療、そして疾患の
予防にまで広く携わってい
かなければなりません。
本書には、運動器の中で
も下肢疾患を中心に日常診
療のエッセンスをまとめら
れています。特徴として
は、股関節、膝関節、足関
節・足部と解剖学的な部位
毎に小児疾患から、外傷、
退行性疾患、スポーツ損
傷、脊椎疾患、末梢神経障
害などがまとめられてお
り、さらに疾患の理解に必
要な運動器の解剖からバイ
オメカニクスも確認できる
ことです。各分野の専門家
により執筆されており、単
に疾患の診断と治療の解説
にとどまらず、実診察にお
ける基本姿勢から診断、保
存治療、そして手術治療
にいたる過程が分かり易く解
説されています。整形外科
専門医を目指す先生方に対
象に企画された本書ではあ
りますが、医学部学生や理
学療法士、専門医の先生方
のお手元においていただけ
ます。
幸いです。

人事異動 (H30.9.1 ~ H30.11.30)

●医学研究科

Table with columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Includes entries for H30.10.1 regarding 先進移植再生医学講座.

【昇任】

Table with columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Lists appointments for H30.9.1, H30.10.1, and H30.11.1.

【採用】

Table with columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Lists new hires for H30.10.1 and H30.11.1.

【配置換】

Table with columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Lists reassignments for H30.10.1 and H30.11.1.

【辞職】

Table with columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 異動先等. Lists resignations for H30.9.30.

●附属病院

Table with columns: 異動日, 診療科等, 職名, 氏名, 採用前・採用後. Includes entry for H30.11.1 regarding 周産母子センター.

【昇任】

Table with columns: 異動日, 診療科等, 職名, 氏名, 採用前・採用後. Lists appointments for H30.9.1 and H30.10.1.

【採用】

Table with columns: 異動日, 診療科等, 職名, 氏名, 採用前・採用後. Lists new hires for H30.10.1 and H30.11.1.

【配置換】

Table with columns: 異動日, 診療科等, 職名, 氏名, 採用前・採用後. Lists reassignments for H30.10.1.

【配置変更】

Table with columns: 異動日, 診療科等, 職名, 氏名, 採用前・採用後. Lists reassignments for H30.11.1.

【任命】

Table with columns: 異動日, 診療科等, 職名, 氏名, 採用前・採用後. Lists appointments for H30.10.1 regarding 輸血部長.

【辞職】

Table with columns: 異動日, 診療科等, 職名, 氏名, 採用前・採用後. Lists resignations for H30.9.30 and H30.10.31.

臨床教授・臨床准教授称号付与者 (平成30年10月1日現在)

Table with columns: 称号名, 氏名, 現職名, 称号付与期間. Lists clinical professors and associate professors as of October 1, 2018.

診療教授等新規称号付与者 (H30.9 ~ H30.11)

Table with columns: 称号, 氏名, 所属, 期間. Lists newly appointed clinical professors for H30.9, H30.10, and H30.11.

二〇一八年最後の医学
部ウォーカーも無事発行
となりました。いよいよ
年の瀬を迎え、今年も終
わろうとしております。
今年も暖冬で、十二月に
入っても関東などでは夏
日であったと報じられて
おりました。しかしなが
ら、残念ながら気温は順
調に下がり、結果、弘前
も銀世界となっておりま
す。最近では道路に根雪が
積もるまでの状態にな
っていきなかつたので、
このままどうなるやら先
行き不安です。弘前大学
に入学するとともに弘前
の冬を初めて経験し、は
や二十五年くらい過ぎま
した。当初は冬が来るの
が憂鬱で、大雪が降ると
雪掻きの大変さに毒づい
ておりました。しかしな
がら、最近では、ああ、雪
がたくさん降ったな、程
度になりました。二十五
年を経てようやく北国の
冬に慣れたかと思いまし
たが、よく考えてみれば
そうではありませぬ。何
のことはない、日中の家
の雪掻きは妻がしている
ため、雪掻きの回数が著
しく減ったためではない
かと気がつきました。私
達がいまも仕事に集中で
きるのも、家族を含めた
多くの方々の協力があれ
ばこそです。今年一年も
医学部ウォーカー発行に
際し、お忙しい中多くの
方々に原稿を書いていた
だき、本当に感謝してお
ります。来年一年もど
うぞよろしく願いたし
ます。
(水上 記)

編集後記